

レッドリストすいた 2024

～守りたい吹田のいきものたち～



RED LIST SUITA 2024

特定非営利活動法人すいた市民環境会議

目 次

1	はじめに	1
2	吹田市のレッドリストカテゴリーとランク	2
	(1) 吹田市のレッドリストカテゴリーとランク	2
	(2) 国(環境省)レッドリストカテゴリーとランク	3
	(3) 近畿地方の保護上重要な植物カテゴリーとランク	4
	(4) 大阪府のレッドリストカテゴリーとランク	4
3	吹田レッドリストの概要	5
4	吹田レッドリスト一覧	6
	(1) 生態系	6
	(2) 植物	7
	(3) 哺乳類	8
	(4) 鳥類	9
	(5) は虫類	9
	(6) 両生類	9
	(7) 昆虫	10
5	解説	12
	生態系レッドリストマップ	12
	生態系	13
	植物	24
	哺乳類	45
	鳥類	48
	は虫類	55
	両生類	59
	昆虫	61
6	ブラックリスト	91
	編集後記	94

1 はじめに

吹田市は、大阪府北部にあり、東西 6.3km、南北 9.6km、面積 36.09km²で、南部は平地となっており、中・北部は最高 117m の緩やかな丘陵地となっている。1960 年代までは丘陵地は段々畑となっていて、竹林や里山林がモザイク状に配置されていた。1960 年代から大阪のベッドタウンとして千里ニュータウンの開発が始まり、丘陵地が緩やかなこともあって大部分が改変された。南部の平地には水田が広がっていたが、そこも工場や宅地となって、現在では水田はわずかに残っている程度である。

「吹田市第 2 次みどりの基本計画（改定版）」（2016 年）によると竹林も含めた森林面積は 394.4ha となっており、市面積の約 11%しかない。また、農地も約 0.9%とかなり少ない。現在も開発が進んでおり、これらの面積がさらに減少している。この残された森林や農地は細切れ状態で、それぞれ孤立しており、そこで絶滅した生物は他から再び侵入してくることは少ない。

これまでの開発によって、吹田市内に生育・生息していた生物はかなり減少したと思われる。生物多様性の低下は世界的な問題であるが、その保全については地域毎に取り組むことしかできない。そのためにはその地域の自然をよく知り、どのような課題があるかを探り、対策をたてる必要がある。その対策の前提としてレッドリストの作成が挙げられる。

レッドリストは国や各都道府県では既に作成しており、市町においても公表しているところが多くある。それぞれの地域で環境や状況が異なることから、地域ごとのレッドリストの作成は必要である。

各自治体で危機的な状況もしくは減少が著しい生き物を特定することで保全の目標を立て易くなる。他の地域では普通種であっても、当該地域には少ないか減少している種が多くある。そのために自治体独自のレッドリスト作成には意義がある。ただ、その種が残ればいいのか問題ではなくて、その種が存続できる環境を維持することが重要である。

ここでは「すいたの自然 2011」で調査された生物目録を参考にして調査されていなかった地域の追加調査および有識者の知見や情報を基に貴重な種を選定し、ランクをつけた。今回対象としたのは生態系、植物、哺乳類、鳥類、は虫類、両生類、昆虫の 7 部門である。ほとんど情報の無い魚類、貝類、甲殻類、菌類、蘚苔類などは選定しなかった。今後の課題である。

今回、2021 版以降の新しく得られた情報をもとに改定を行い、生態系に大きな影響を与える生物をブラックリストとして加えた。また、生態系の水田は C ランクとしていたが、近年の開発で減少しており、B ランクに格上げした。

（武田義明）

2 吹田市のレッドリストカテゴリーとランク

(1) 吹田市のレッドリストカテゴリーとランク

吹田市の絶滅危惧種のランクはEX, A, B, C, Dとし、国、近畿地方、大阪府のレッドリストで指定されている種を含めると同時に吹田市で重要と思われる種を選定した。

吹田市のレッドリストカテゴリーとランクは以下の通りである。

生物種

絶滅種 (EX)

吹田市内ですでに絶滅したと考えられる種

絶滅危惧種 A

ごく近い将来に吹田市内から絶滅する危険性が極めて高い種

絶滅危惧種 B

吹田市内から絶滅する危機が増大している種

絶滅危惧種 C

絶滅危惧種 Bほどではないが、吹田市内から絶滅する危機が増大している種

情報不足 D

評価するだけの情報が不足している種

生態系

生態系 A

自然性が高いか人工的であっても絶滅危惧種を多く含む生態系

生態系 B

A ランクほどではないが、それに準じる自然性や絶滅危惧種を含む生態系

生態系 C

自然性はそれほど高くはないが、地域の景観を形成している生態系

情報不足 D

評価するだけの情報が不足している生態系

(2) 国(環境省)レッドリストカテゴリーとランク

「環境省レッドリスト 2020 (<https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf>)」による

絶滅 (EX)

我が国ではすでに絶滅したと考えられる種

野生絶滅 (EW)

飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧 I A 類 (CR)

ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧 I B 類 (EN)

I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧 II 類 (VU)

絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧 (NT)

現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

情報不足 (DD)

評価するだけの情報が不足している種

絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)

地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

(3) 近畿地方の保護上重要な植物カテゴリーとランク

「改定・近畿地方の保護上重要な植物－レッドデータブック近畿 2001－」による

絶滅種

近畿地方では絶滅したと考えられる種

絶滅危惧種 A

近い将来において絶滅の危険性が極めて高い種

絶滅危惧種 B

近い将来において絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧種 C

絶滅の危険性が高くなりつつある種

準絶滅危惧種

生育条件の変化によっては「絶滅危惧種」に移行する要素を持つ種

(4) 大阪府のレッドリストカテゴリーとランク

「大阪府レッドリスト 2014」による

絶滅 (EX) 大阪府内ではすでに絶滅したと考えられる種

絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 大阪府内において絶滅の危機に瀕している種

絶滅危惧 II 類 (VU) 大阪府内において絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧 (NT) 大阪府内において存続基盤が脆弱な種

情報不足 (DD) 評価するだけの情報が不足している種

3 吹田レッドリストの概要

吹田におけるレッドリスト 2021 年の状況では指定は以下のようになった。それぞれの生態系および種については次ページ以降に示す。

生態系レッドリスト

生態系 A 11 ヲ所、生態系 B 16 ヲ所、生態系 C 22 ヲ所、情報不足 D 1 ヲ所

生物

植物

絶滅種 EX 4 種、絶滅危惧種 A 41 種、絶滅危惧種 B 14 種、絶滅危惧種 C 27 種、
情報不足 D 10 種

哺乳類

絶滅危惧種 A 5 種、絶滅危惧種 C 1 種、情報不足 D 5 種

鳥類

絶滅危惧種 A 13 種、絶滅危惧種 B 4 種、絶滅危惧種 C 1 種、情報不足 D 2 種

は虫類

絶滅危惧種 A 6 種、情報不足 D 2 種

両生類

絶滅危惧種 A 3 種、情報不足 D 5 種

昆虫

絶滅種 EX 1 種、絶滅危惧種 A 59 種、絶滅危惧種 B 15 種、絶滅危惧種 C 2 種、
情報不足 D 26 種

4 吹田レッドリスト一覧

(1) 生態系

地図番号	件名	所在地	ランク
1	青山台 法面	青山台	A
2	山田西 水田	山田西	A
3	千里第4緑地 ヒメボタル生息地	高野台・山田西	A
4	紫金山公園 コバノミツバツツジ群生地	岸部北	A
5	万博記念公園	千里万博公園	A
6	千里第2緑地	藤白台	A
7	佐竹台 法面	佐竹台	A
8	糸田川下流	江の木町・南吹田他	A
9	砂子谷新池	千里山竹園2丁目	A
10	桃山公園 春日大池	桃山台	A
11	千里北公園 水遠池	藤白台	A
12	安威川	南正雀・南高浜町他	B
13	神崎川	内本町・芳野町他	B
14	紫金山公園 水田	岸部北	B
15	千里第4緑地 名無し池	高野台	B
16	大阪大学 犬飼池・遊水地	山田丘	B
17	長野公園	長野東	B
18	千里第1緑地	青山台	B
19	青山公園 西側傾斜地	青山台	B
20	千里山西 水田	千里山西	B
21	三保ヶ池および上流水田	新芦屋・青葉丘南	B
22	青葉丘南 水田	青葉丘南	B
23	岸部北 水田	岸部北	B
24	佐井寺 水田	佐井寺4	B
25	千里山高塚 水田	千里山高塚	B
26	春日 水田	春日	B
27	千里山月ヶ丘 水田	千里山月ヶ丘	B
28	紫金山公園 釈迦ヶ池	岸部北・五月ヶ丘東	C
29	千里第4緑地 海老池	山田西	C
30	佐竹公園 菩提池	佐竹台	C
31	千里北公園 蓮間池	藤白台	C
32	バナソニックリゾート大阪	青葉丘南	C
33	千里丘上公園	千里丘	C
34	新芦屋中央公園	新芦屋上	C
35	青葉丘南第3公園、千里丘稻荷神社	青葉丘南・千里丘北	C
36	ミリカ北部緑地	千里丘北	C
37	垂水神社	垂水町	C
38	津雲公園	津雲台	C
39	千里南公園	津雲台	C
40	春日地域竹林	春日	C
41	青山公園	青山台	C
42	くちなし公園	青山台	C
43	片山公園	出口町	C
44	千里第3緑地	藤白台	C
45	千里第5緑地	佐竹台	C
46	千里第6緑地	佐竹台	C
47	千里第7緑地	桃山台	C
48	千里第8緑地	桃山台	C
49	千里北公園 旧農園	藤白台	C
50	都市緑化植物園 鎌池	江坂町	D

(2) 植物

科名	種名	吹田	大阪府	近畿	国
ミツガシワ科	アサザ	EX	DD	A	NT
オオバヤドリギ科	マツグミ	EX			
ムラサキ科	オニルリソウ	EX			
ミツバウツギ科	ゴンズイ	EX			
サンショウモ科	サンショウモ	A	CR+EN	C	VU
チャセンシダ科	コタニワタリ	A			
ウラボシ科	クリハラン	A			
キンボウゲ科	ヒキノカサ	A	CR+EN	A	VU
ナデシコ科	ミミナグサ	A			
ミソハギ科	ミソハギ	A			
アブラナ科	イヌナズナ	A			
ハマウツボ科	ナンバンギセル	A			
ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	A			
ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ	A			
オトギリソウ科	コケオトギリ	A			
バラ科	イヌザクラ	A			
バラ科	リンボク	A			
モチノキ科	ウメモドキ	A			
リョウブ科	リョウブ	A			
ツツジ科	ケアクシバ	A			
リンドウ科	フデリンドウ	A			
マチン科	アイナエ	A	CR+EN	C	
リンドウ科	イヌセンブリ	A	VU	C	VU
キョウチクトウ科	コカモメヅル	A			
キツネノマゴ科	オキノツメ	A			
シソ科	ミソコウジュ	A	NT	C	NT
シソ科	ツルニガクサ	A			
オオバコ科	イヌノフグリ	A		準	NT
オオバコ科	カワヂシャ	A	NT	準	NT
オオバコ科	キクモ	A			
キク科	リュウノウギク	A			
キク科	オグルマ	A	CR+EN	C	
キク科	アキノキリンソウ	A			
キク科	オトコヨモギ	A			
トチカガミ科	ミズオオバコ	A	NT		VU
ユリ科	コオニユリ	A			
ユリ科	ササユリ	A			
キンコウカ科	ソクシンラン	A			
ラン科	ヤマサギソウ	A	CR+EN	A	
ラン科	キンラン	A	VU	C	VU
ガマ科	コガマ	A	NT	C	
ガマ科	ガマ	A			
イネ科	オオアブラススキ	A			
サトイモ科	カントウマムシグサ	A			
カヤツリグサ科	オオシロガヤツリ	A	NT	C	
キョウチクトウ科	スズサイコ	B	VU	C	NT
キキョウ科	キキョウ	B	VU	C	VU
イネ科	ウシノシッペイ	B			
ラン科	タシロラン	B		準	NT
ラン科	コ克蘭	B			
バラ科	ウワミズザクラ	B			
マメ科	ヤブツルアズキ	B			
ヒメハギ科	ヒメハギ	B			
ラン科	クゲヌマラン	B			VU
ミズキ科	クマノミズキ	B			
ツツジ科	ギンリョウソウ	B			
マツモ科	マツモ	B			

植物（つづき）

科名	種名	吹田	大阪府	近畿	国
スイカズラ科	ツクバネウツギ	B			
イグサ科	ヒメコウガイゼキショウ	B			
マツバラン科	マツバラン	C	CR+EN	準	NT
ハナヤスリ科	コヒロハハナヤスリ	C			
ドクダミ科	ハンゲショウ	C	NT		
ケシ科	ムラサキケマン	C			
バラ科	ワレモコウ	C			
バラ科	ザイフリボク	C			
マメ科	クララ	C			
マメ科	ノアズキ	C			
ブドウ科	エビヅル	C			
サクラソウ科	ヌマトラノオ	C			
サクラソウ科	オカトラノオ	C			
アカネ科	フタバムグラ	C			
シソ科	ウツボグサ	C			
シソ科	タツナミソウ	C			
キキョウ科	ツリガネニンジン	C			
ガマ科	ガマ	C			
イネ科	サヤヌカグサ	C			
カヤツリグサ科	ミコシガヤ	C	NT	C	
ラン科	ギンラン	C	VU		
ラン科	シュンラン	C			
マメ科	ヌスビトハギ	C			
イネ科	メガルカヤ	C			
イネ科	オガルカヤ	C			
ビャクダン科	カナビキソウ	C			
アカネ科	カワラマツバ	C			
シソ科	アキノタムラソウ	C			
アリノトウグサ科	アリノトウグサ	C			
ビャクダン科	ヒノキバヤドリギ	D			
タデ科	コギシギシ	D	NT		VU
アブラナ科	ミズタガラシ	D	VU		
セリ科	ドクゼリ	D	VU	C	
シソ科	コバノタツナミソウ	D			
ワスレグサ科	ノカンゾウ	D	VU		
タデ科	ヤナギヌカボ	D	CR+EN	C	VU
ミクリ科	ミクリ	D			NT
クロウメモドキ科	イソノキ	D			
アブラナ科	コイヌガラシ	D	NT	C	NT

(3) 哺乳類

科名	種名	吹田	大阪府	国
ネズミ科	アカネズミ	A		
ネズミ科	カヤネズミ	A	NT	
イヌ科	ホンドキツネ	A	CR+EN	
イタチ科	ニホンアナグマ	A	NT	
イタチ科	ホンドテン	A		
ヒナコウモリ科	アブラコウモリ	C		
キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ	D	NT	
ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ	D	DD	
ヒナコウモリ科	ユビナガコウモリ	D	CR+EN	
オヒキコウモリ科	オヒキコウモリ	D		VU
イタチ科	ニホンイタチ	D	VU	

(4) 鳥類

科名	種名	吹田	大阪府	国
キジ科	キジ	A		
サギ科	ゴイサギ	A		
チドリ科	ケリ	A	NT	DD
チドリ科	コチドリ	A	NT	
タカ科	オオタカ	A	NT	NT
ハヤブサ科	チョウゲンボウ	A		
ヒバリ科	ヒバリ	A	NT	
ツバメ科	コシアカツバメ	A	NT	
ヨシキリ科	オオヨシキリ	A	NT	
セッカ科	セッカ	A	NT	
ヒタキ科	キビタキ	A		
ヒタキ科	コサメビタキ	A	VU	
ホオジロ科	ホオジロ	A		
カイツブリ科	カイツブリ	B		
クイナ科	バン	B		
ウグイス科	ウグイス	B		
モズ科	モズ	B		
カワセミ科	カワセミ	C		
フクロウ科	アオバズク	D	VU	
フクロウ科	フクロウ	D	NT	

(5) は虫類

科名	種名	吹田	大阪府	国
イシガメ科	ニホンイシガメ	A	NT	NT
イシガメ科	ニホンスッポン	A		DD
ナミヘビ科	アオダイショウ	A		
ナミヘビ科	シマヘビ	A		
ナミヘビ科	ジムグリ	A		
ナミヘビ科	ヒバカリ	A	VU	
ナミヘビ科	ヤマガガシ	D	NT	
クサリヘビ科	マムシ	D		

(6) 両生類

科名	種名	吹田	大阪府	国
アマガエル科	ニホンアマガエル	A		
アカガエル科	ニホンアカガエル	A	VU	
アカガエル科	トノサマガエル	A	NT	NT
イモリ科	アカハライモリ	D	NT	NT
アカガエル科	ツチガエル	D	NT	
アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	D	NT	
アオガエル科	モリアオガエル	D		
ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	D	VU	

(7) 昆虫

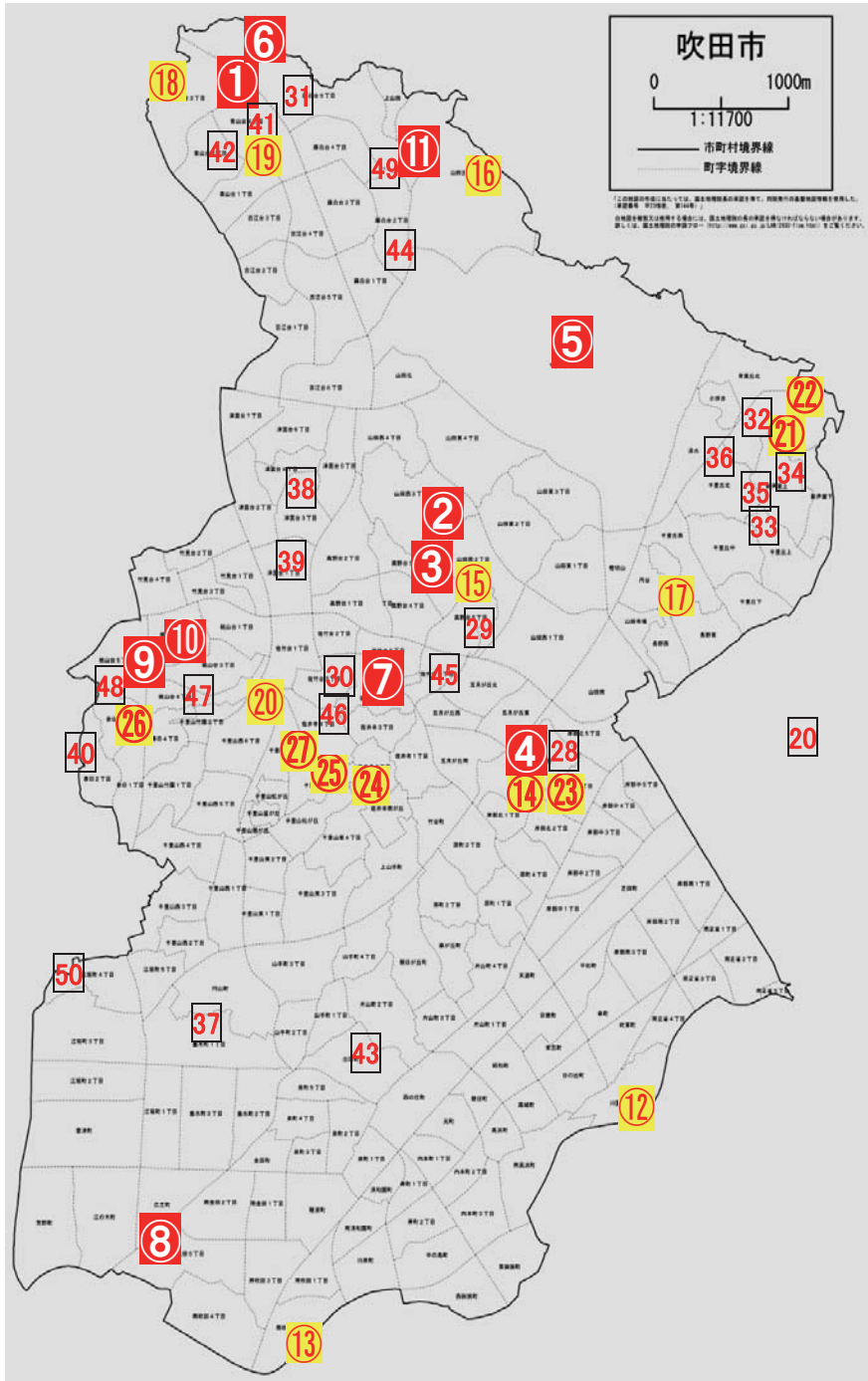
科名	種名	吹田	大阪府	国
サナエトンボ科	フタスジサナエ	EX	NT	NT
アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ	A		
アオイトトンボ科	オツネントンボ	A	NT	
イトトンボ科	キイトトンボ	A	NT	
イトトンボ科	ベニイトトンボ	A	NT	NT
イトトンボ科	オオイトトンボ	A	CR+EN	
イトトンボ科	セスジイトトンボ	A	NT	
イトトンボ科	ホソミイトトンボ	A	NT	
サナエトンボ科	ウチワヤンマ	A	NT	
エゾトンボ科	トラフトンボ	A	NT	
ヤンマ科	アオヤンマ	A	VU	NT
ヤンマ科	カトリヤンマ	A	NT	
ヤンマ科	サラサヤンマ	A	NT	
トンボ科	アキアカネ	A	NT	
トンボ科	ナツアカネ	A	NT	
トンボ科	マイコアカネ	A	NT	
トンボ科	ヒメアカネ	A	NT	
トンボ科	コフキトンボ	A	NT	
トンボ科	シオヤトンボ	A		
トンボ科	ナニワトンボ	A	VU	VU
トンボ科	ノシメトンボ	A	NT	
トンボ科	ヨシボシトンボ	A	NT	
トンボ科	キトンボ	A	VU	
トンボ科	ハラビロトンボ	A		
バッタ科	ツマグロバッタ	A		
マツムシ科	マツムシ	A		
アメンボ科	ヤスマツアメンボ	A	NT	
タイコウチ科	ミズカマキリ	A	NT	
シジミチヨウ科	ミドリシジミ	A	NT	
シジミチヨウ科	トラフシジミ	A		
タテハチヨウ科	オオムラサキ	A	NT	NT
タテハチヨウ科	ミドリヒョウモン	A		
タテハチヨウ科	ヒオドシチヨウ	A		
タテハチヨウ科	アサマイチモンジ	A		
タテハチヨウ科	コミスジ	A		
アゲハチヨウ科	ジャコウアゲハ	A		
アゲハチヨウ科	カラスアゲハ	A		
アゲハチヨウ科	ミヤマカラスアゲハ	A		
シロチヨウ科	スジグロシロチヨウ	A		
シャチホコガ科	モンクログインシャチホコ	A	NT	
コブガ科	ウスアオリング	A	NT	
ゲンゴロウ科	ウスイロシマゲンゴロウ	A	NT	
ホソクビゴミムシ科	ミイデラゴミムシ	A		
ガムシ科	スジヒラタガムシ	A	NT	NT
クワガタムシ科	ノコギリクワガタ	A		
コガネムシ科	アオカナブン	A		
コガネムシ科	クロカナブン	A	VU	
コガネムシ科	ドウガネブイブイ	A	NT	
コガネムシ科	ムネアカセンチコガネ	A	VU	
コメツキムシ科	ツシマヒメサビキコリ	A	NT	
ホタル科	ヒメボタル	A	NT	
ホタル科	ヘイケボタル	A	NT	
テントウムシ科	ジュウクホシテントウ	A	NT	
テントウムシ科	ジュウサンホシテントウ	A	NT	
カミキリムシ科	シロスジカミキリ	A		
カミキリムシ科	ベニバナカミキリ	A		
ハムシ科	クロオビツツハムシ	A	NT	
スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ	A		DD
スズメバチ科	モンズズメバチ	A		DD
アナバチ科	キアシハナダカバチモドキ	A		

昆虫（つづき）

科名	種名	吹田	大阪府	国
トンボ科	マユタテアカネ	B		
オサムシ科	マイマイカブリ	B		
ケラ科	ケラ	B		
コオロギ科	マツムシ	B		
キリギリス科	ヤブキリ	B		
シジミチョウ科	アカシジミ	B		
シジミチョウ科	ミズイロオナガシジミ	B		
タテハチョウ科	コムラサキ	B	VU	
シロチョウ科	ツマキチョウ	B		
ヤガ科	コシロシタバ	B		NT
ハンミョウ科	ハンミョウ	B	NT	
ハンミョウ科	コハンミョウ	B		
クワガタムシ科	ネプトクワガタ	B		
クワガタムシ科	ヒラタクワガタ	B		
マツムシ科	カンタン	B		
ヤンマ科	ヤブヤンマ	C		
サナエトンボ科	ヤマサナエ	C		
ヤンマ科	オオルリボシヤンマ	D	NT	
サナエトンボ科	アオサナエ	D	NT	
サナエトンボ科	オオサカサナエ	D	VU	VU
サナエトンボ科	キイロサナエ	D	NT	NT
サナエトンボ科	ホンサナエ	D	VU	
エゾトンボ科	キイロヤマトンボ	D	CR+EN	NT
エゾトンボ科	タカネトンボ	D		
トンボ科	オオキトンボ	D	CR+EN	EN
トンボ科	コノシメトンボ	D		
トンボ科	ネアカヨシヤンマ	D	VU	NT
トンボ科	ベニトンボ	D		
トンボ科	ネキトンボ	D		
キリギリス科	カヤキリ	D		
キリギリス科	クツムシ	D	NT	
キリギリス科	ハタケノウマオイ	D		
ノミバッタ科	ノミバッタ	D		
タイコウチ科	タイコウチ	D		
シジミチョウ科	ウラナミアカシジミ	D	VU	
シロチョウ科	ツマグロキチョウ	D	CR+EN	EN
タテハチョウ科	コジャノメ	D		
ヤガ科	カバフキシタバ	D	NT	
クワガタムシ科	オオクワガタ	D	VU	VU
カミキリムシ科	キボシカミキリ	D		
ハムシ科	ハツカハムシ	D	NT	
アリ科	クロナガアリ	D		
スズメバチ科	ヒメスズメバチ	D		

5 解説

吹田市生態系レッドリストマップ (生物多様性ホットスポット)



Aランク

- ①青山台 法面
- ②山田西 水田
- ③千里第4緑地 ヒメボタル生息地
- ④紫金山公園 コバノミツバツツジ群生地
- ⑤万博記念公園
- ⑥千里第2緑地
- ⑦佐竹台 法面
- ⑧糸田川下流
- ⑨砂子谷新池
- ⑩桃山公園 春日大池
- ⑪千里北公園 水遠池

Bランク

- ⑫安威川
- ⑬神崎川
- ⑭紫金山公園 水田
- ⑮千里第4緑地 名無し池
- ⑯大阪大学 犬飼池・遊水地
- ⑰長野公園
- ⑱千里第1緑地
- ⑲青山公園 西側傾斜地
- ⑳千里山西 水田
- ㉑三保ヶ池および上流水田
- ㉒青葉丘南 水田
- ㉓岸部北 水田
- ㉔佐井寺 水田
- ㉕千里山高塚 水田
- ㉖春日 水田
- ㉗千里山月が丘 水田

Cランク

- ㉘紫金山公園 釈迦ヶ池
- ㉙千里第4緑地 海老池
- ㉚佐竹公園 菩提池
- ㉛千里北公園 蓮間池
- ㉜パナソニックリゾート大阪
- ㉝千里丘上公園
- ㉞新芦屋中央公園
- ㉟青葉丘南第3公園、千里丘稻荷神社
- ㊱ミリカ北部緑地
- ㊲垂水神社
- ㊳津雲公園
- ㊴千里南公園
- ㊵春日地域竹林
- ㊶青山公園
- ㊷くちなし公園
- ㊸片山公園
- ㊹千里第3緑地
- ㊺千里第5緑地
- ㊻千里第6緑地
- ㊼千里第7緑地
- ㊽千里第8緑地
- ㊾千里北公園 旧農園

Dランク

- ㊿都市緑化植物園 鎌池

生態系

青山台 法面

ランク 吹田市:A

【生態系の特徴】

青山台の北東の千里けやき通り側の法面で、チガヤやメリケンカルカヤの優占する群落広がっている。やや湿性な場所ではヨシが見られたり、乾性な場所ではアリノトウグサが生育したりしている。この群落は年 2 回の刈り取りによって、維持されている。

【選定理由】

チガヤの二次草原（草刈りなど人為的影響を受けて成立している草原）となっていて、ヤマサギソウ、イヌセンブリ、アイナエ、スズサイコ、フデリンドウなどここでしか確認されていない希少種が多数生育しており、また、ウツボグサやミヤコグサの群生も見られる。吹田市内では他に見られない貴重な二次草原となっている。



図 青山台法面の二次草原（赤線の部分）。写真はgoogleより



図 フデリンドウの生育している斜面

山田西 水田



図 山田西水田（赤線の部分）写真は google より



図 イネが植えられている水田。サンショウモ、ニシノオオアカウキクサ、ウキクサが水面を覆っている。

ランク 吹田市:A

【生態系の特徴】

吹田市に残っている数少ない水田の一つである。場所は吹田市山田西 3 丁目で、3 面の棚田となっている。東および西側はモウソウ竹林に接しており、東側はマンションとなっている。

夏期にはイネが栽培され、水が張られているが、冬期は休耕している。

【選定理由】

水田には、春にはコオニタビラコ、スズメノテッポウ、セトガヤ、ムツオレグサ、ノミノフスマなどが見られ、夏から秋にかけて、ウリカワ、コナギ、イヌホタルイ、アゼナなど水田特有の植物が見られる。また、ウキクサ、ニシノオオアカウキクサ、希少種のサンショウモなどの浮遊植物が水田を覆っている。その他、畦畔にはアキノタムラソウ、ツリガネニンジン、ウメモドキなど吹田市で少なくなった植物や希少種のトノサマガエルが見られる。この様に希少動植物が存在する水田は貴重である。

千里第4緑地 ヒメボタル生息地 ランク 吹田市:A



図 第4緑地（赤線の部分）写真は google より



図 第4緑地のアベマキーコナラ群落の内部

【生態系の特徴】

高野台と山田西の境沿いに細長く残されている緑地で、アベマキーコナラ群落やモウソウ竹林が占め、一部はメタセコイヤの植林となっている。北部には高町池、中央部には名無し池、南部には海老池が存在している。高町池の上流側は放棄された畑があり、ネザサが繁茂している。ここではヒメボタル保全のために市民団体によって植生管理が行われている。

【選定理由】

吹田市内では比較的まとまったアベマキーコナラ群落であり、植物の種類も多い。また、林床には希少種のギンランが比較的多く見られる。

本地では吹田市唯一の天然記念物であるヒメボタルの生息地となっており、期間中には延べ10000匹ほど見られる。

紫金山公園 コバノミツバツツジ群生地 ランク 吹田市:A



図 紫金山公園 写真は google より

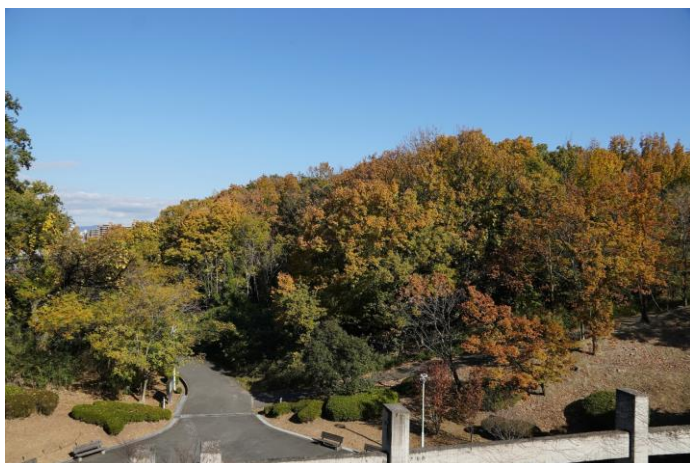


図 紫金山公園のアベマキーコナラ群落



図 コバノミツバツツジの群生

【生態系の特徴】

紫金山公園は、吹田市岸部北に位置し、名神吹田サービスエリアに接しており、公園の北部は釈迦ヶ池となっている。公園の面積は 11.4ha であるが、森林部分は約 7ha でアベマキーコナラ群落となっている。戦後まもなくはアカマツ林となっていて、その後 1961 年の空中写真ではアカマツが伐採され、低木群落となっている。この様な環境で、コバノミツバツツジは旺盛に繁殖でき、花の時期には紫色に染まることから紫金山と呼ばれるようになった。コバノミツバツツジの群生は市民団体によって、管理されている。

【選定理由】

平成初期にはコバノミツバツツジが常緑樹に被陰され、衰弱してきていたが、植生管理により復活し、今では見事な群落を形成している。吹田市内では、この様に群生している場所は他になく、貴重である。また、在来の植物種も多く、市街地であってまとまった緑地を形成しているので重要である。

その他、公園内には水田もあるため、アキアカネなどの赤とんぼの繁殖地にもなっている。

万博記念公園

ランク 吹田市:A



図 万博記念公園 写真は google より



図 万博記念公園の森

【生態系の特徴】

万博記念公園は1970年の万国博覧会の開催に合わせて開発され、その後、公園として利用されてきたものである。一旦更地にしてから森林が造成され、浅い池や水路も建設された。そのため、様々な環境ができている。人工的に造られた緑地とはいえ、50年も経つとそれなりに落ち着いた植生となっている。

【選定理由】

ほとんどが人工の植生であるが、コタニワタリ、クリハラン、ミゾコウジュ、オグルマ、タシロラン、クゲヌマランなど吹田市内ではここでしか見られない植物が多数ある。また、オオムラサキ、ミドリシジミ、ヤマサナエなどの昆虫もここでしか確認されていない。したがって、万博記念公園は動植物にとって重要な生育・生息場所となっている。

その他まとまった緑があるため、野鳥の飛来種数も多い。

千里第2緑地

ランク 吹田市:A

【生態系の特徴】

第2緑地は、吹田市の最北部で箕面市との境界沿いに細長く残されている藤白台にある緑地である。大部分はモウソウ竹林であるが、アベマキーコナラ群落やアカマツ林も残されている。これらの林は市民団体によって、管理されている。

【選定理由】

第2緑地には、希少種のギンランをはじめとして、ケアクシバ、ツルアリドオシ、イヌザクラ、ウワミズザクラ、クマノミズキなど吹田市内で他には見られない植物が多く生育している。その他、モチツツジ、コバノミツバツツジ、ヤマツツジ、ナツハゼ、ネジキ、カスミザクラ、コナラ、アベマキなど里山林を代表する樹木が多く生育していることから吹田市では重要である。



図 第2緑地（赤線の部分）写真は google より



図 第2緑地のアベマキーコナラ群落とモウソウ竹林

佐竹台 法面

ランク 吹田市:A

【生態系の特徴】

佐竹台は1960年頃から千里ニュータウンの一角として開発された地域である。佐竹台4丁目と5丁目の境に東西に約100mの長さで、20～30mの幅の法面形成されており、草丈の低い草地となっている。この東端の一角にヒキノカサが生育しており、ネザサ、ノビル、カンサイタンポポ、ムラサキサギゴケなどもみられる。年2、3回草刈りがされ、維持されていると思われる。



図 佐竹台 法面 写真は google より

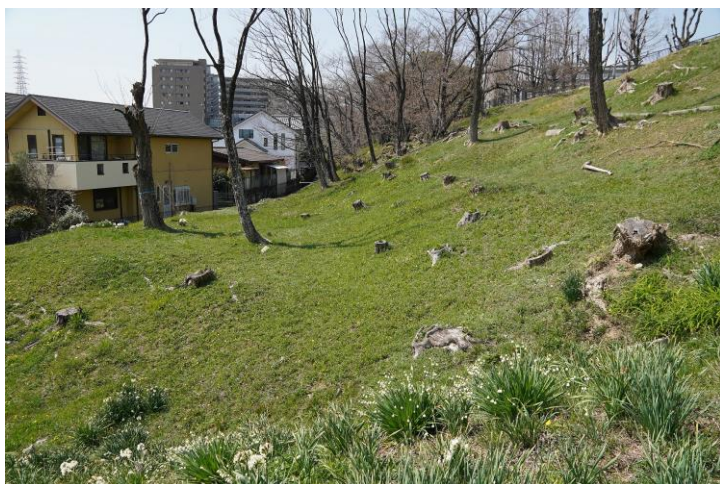


図 佐竹台 法面



図 ヒキノカサ

【選定理由】

現在、大阪府下でヒキノカサの生育地として知られているのは大和川の堤防のみで、本地は2ヵ所目となる。株数も100株以上あり、重要な生育地である。吹田レッドリストでもヒキノカサはAランクとして選定した。

糸田川下流

ランク 吹田市:A

【生態系の特徴】

糸田川は、千里丘陵の出口町と山手町の境を水源とし、阪急豊津駅付近で上の川と合流して神崎川へとそそぐ約 2.3km の 1 級河川である。ほぼ全域がコンクリート三面張り護岸された天井川であるが、新糸田川橋から江の木町・南吹田他の下流約 1km は、勾配が緩くなり河床部に土砂が堆積し水性植生が繁茂している。吹田市内の小河川でこの様な水生植物が多様な環境はない。



図 糸田川下流 写真は google より

【選定理由】

糸田川下流約 1km の河床部に、抽水植物、沈水植物、浮葉植物など多様な水生植物が生育し、ドジョウ、ギンブナ、ニゴイ、マハゼ、タイリクバラタナゴなどの魚類相も豊で、カルガモが繁殖、ササゴイ、コサギ、イソシギなどの鳥類の採餌場となっている。



図 糸田川下流(南吹田 5 丁目付近)

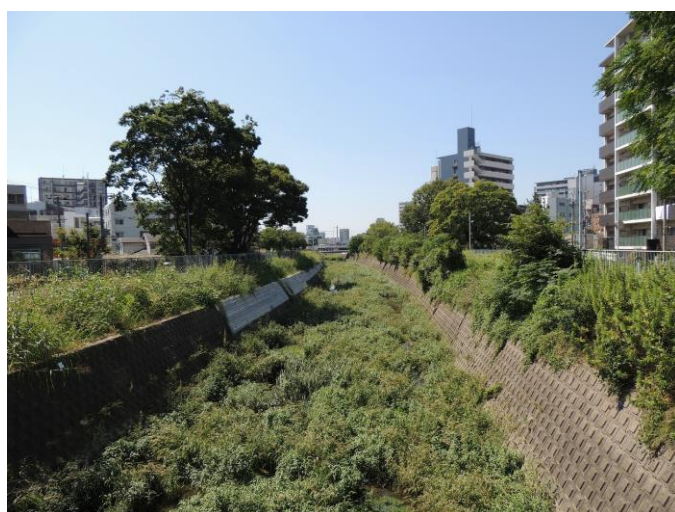


図 糸田川下流(金田町 2 丁目付近)

砂子谷新池

ランク 吹田市:A

【生態系の特徴】

本池は吹田市立南千里中学校の南にあり、西側は埋め立てられマンションが建っている。池の北側および南側にはヨシが繁茂している。また、夏になるとオニビシが水面を覆う。ヨシおよびオニビシはトンボ類の産卵場所となっている。

【選定理由】

大阪府、国の準絶滅危惧種に指定されているベニイトトンボ、大阪府の準絶滅危惧種であるセスジイトトンボ、オツネイトトンボ、ホソミイトトンボ、ナツアカネ、アキアカネなどが確認されている。さらには大阪府、国の絶滅危惧Ⅱ類のナニワトンボが生息しており、トンボ類の生息地として大変貴重である。



図 砂子谷新池 写真は google より



図 砂子谷新池

桃山公園 春日大池

ランク 吹田市:A

【生態系の特徴】

本池は地下鉄御堂筋線桃山台駅に隣接している桃山公園の中にある。周囲は石垣の護岸となっていて、西側にはラクウショウ高木林がある。また、東側には大阪みどりの百選に選ばれた千里の竹林がある。池底にはオオカナダモが一面に茂っており、夏には一部にヒシが繁茂する。オオカナダモは外来種であるが、トンボの幼虫など隠れ家となる。また、ヒシはトンボ類の産卵場所として重要である。ミシシippアカミミガメ、ブルーギル、ブラックバスなどの特定外来生物が生息しているので、駆除すべきである。

【選定理由】

ヒドリガモ、キンクロハジロ、オオバン、ヨシガモ、オカヨシガモなど多くの冬のカモの飛来地となっているほか吹田レッドリスト A ランクのアキアカネ、セスジイトトンボ、キトンボ、ベニイトトンボやネキトンボなど多くのトンボ類が生息しており貴重である。



図 水遠池 写真は google より



図 春日大池

千里北公園 水遠池

ランク 吹田市:A

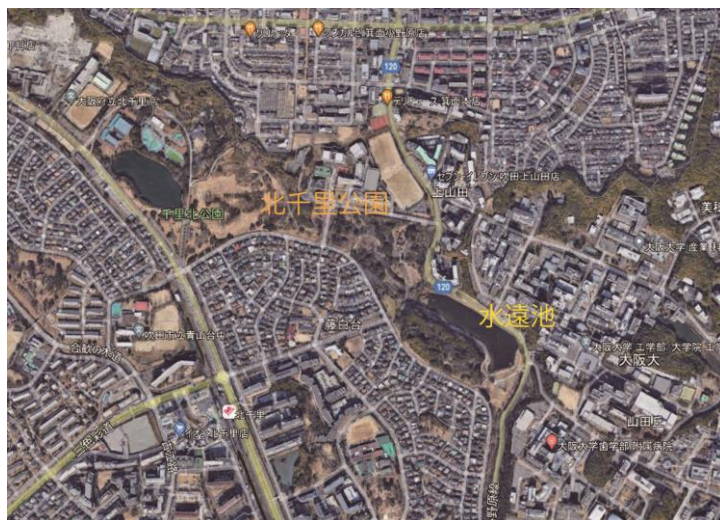


図 水遠池 写真は google より



図 水遠池

【生態系の特徴】

本池は北千里公園の東側にあり、南で里山林と隣接している。2018年に護岸工事のため一旦水が落とされた。そのため、以前には見られなかったヒシが復活し、池面を覆うようになった。

【選定理由】

本池は、カモ類の越冬地になっているほか、浅瀬には希少種のカワヂシャが生育している。また、吹田で特定外来生物に指定されているブルーギル、ブラックバスのいない希少な池である。その他、吹田のAランクおよび大阪府の準絶滅危惧種のセスジイトトボ、カトリンマ、ウチワヤンマ、コフキトンボ、アキアカネなど希少なトンボ類も多く生息している。

植物

サンショウモ (サンショウモ科)

ランク 吹田市:A 大阪府:CR+CN 近畿:C 国:VU



図 サンショウモ

【種の特徴】

水生のシダ植物で、茎は長さ 3～10cm となり、まばらに枝分する。葉は 3 枚輪生で、その内 2 枚は対生状となり水面に浮く。残りの 1 枚は細かく裂けて、根のように水中にたれる。根はない。冬は枯れて孢子で過ごす。

【選定理由】

国では絶滅危惧Ⅱ類(VU)、近畿では C ランク、大阪府で絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)に指定されており、吹田市内でも山田西の水田で確認されているだけである。

コタニワタリ(チャセンシダ科)



図 コタニワタリ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

山地のやや陰湿な林床に生える常緑性のシダ植物。やや日本海寄りに分布する。根茎は短く、斜上し、葉を叢生する。葉身は単葉で披針形。長さ12~50cm、幅3~6cmで下部はやや狭くなる。先端はとがり、基部は心形で耳状になる。葉質はやや多肉質。裏面の孢子囊群は線形で長さ4~18mm。中肋に直角に近い広い角度でつく。

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内では万博記念公園で1株しか確認されていない。北方系の種で、近畿中部の低地にあるのは珍しい。

クリハラン(ウラボシ科)



図 クリハラン

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

山林中の地上や溪流近くの湿った岩上に生える常緑性のシダ植物で、群生することが多い。根茎は横に長く伸びる。長さ10~30cmの長い葉柄があり、基部に鱗片がある。葉身は単葉。広披針形で長さ25~40cm、幅4~7cmで縁は波状になる。先端はとがり、基部は楔形。裏面の孢子囊群は円形~楕円形で直径3~5mm。中肋の両側に2~4列にやや不規則に並ぶ。

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内では、万博記念公園でしか確認されていない。南方系の種で、近畿中部では珍しい。

ヒキノカサ(キンポウゲ科)

ランク 吹田市:A 大阪府:CR+EN 近畿:A 国:VU



図 ヒキノカサ

【種の特徴】

日当たりのよい湿った草地に生える多年草。ひげ状の根の他に紡錘状に膨らんだ数本の根があるのが特徴。高さ10~30cmで茎は根元から分枝し、他産地のものは通常無毛であるが、本地のものは全体に毛が多い。根出葉は掌状に3~5裂する。花期は3~4月で、直径1.2~1.7cmの強い光沢のある黄色い花卉の花を咲かせる。そう果は先が少し曲がる。和名は「蛙の傘」でカエルが住むような湿地に生え、花を傘に見立てたという。

【選定理由】

国では絶滅危惧種Ⅱ類、大阪府では絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)に指定されている。大阪府では過去に10ヶ所以上あったが、現在は大和川の堤防のみに生育している。新たに、吹田市佐竹台で見つかった。住宅地裏の公有地の斜面に生息するため保全の必要がある。

ミミナグサ(ナデシコ科)

ランク 吹田市:A 【種の特徴】



図 ミミナグサ

田の畦など生える越年生草本。高さ15~30cmで、葉は卵形から長楕円形である。茎と共に毛が多い。花は白色で、4月~5月に咲き、花卉は5枚で、先は裂ける。外来種のオランダミミナグサによく似ているが花茎が長いことで区別ができる。また、茎や萼は紫紅色を帯びることが多い。

【選定理由】

国や大阪府のレッドリストには無いが、吹田市では、春日、千里山の田の畦にあるだけで、ほかでは見られない。吹田市ではこれらの田畑も減少傾向にあるので、絶滅する可能性がある。

ミソハギ(ミソハギ科)



図 ミソハギ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

田の湿った畦や湿地に生える低木。高さ 1m ほどになる。茎は四角で稜がある。葉は広披針形で柄はなく対生する。花は 7~8 月に葉腋に咲き、花弁は 6 枚。

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内では少ない。新芦屋上で確認されているだけで、ほかでは見られていない。吹田市内では田んぼの縁など湿った環境が少なくなっているため、本種も絶滅の可能性はある。

イヌナズナ(アブラナ科)



図 イヌナズナ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

荒れ地に生える越年草。高さ 20cm になるが、小さくても花をつける。花は 3 月中旬から 6 月にかけて咲き、花弁は 4 枚で萼に毛がある。葉は卵形で 1~4cm で、両面に毛がある。

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内で南千里の歩道の街路柵にしかない。道端なので踏みつけや工事などがあると消滅する可能性がある。

ナンバンギセル(ハマウツボ科)

ランク 吹田市:A



図 ナンバンギセル

【種の特徴】

葉緑素はなく、イネ科の根に寄生する寄生植物。高さ20～30cmになり、9月～10月にかけて花が咲く。

【選定理由】

高野台の道路法面のススキ群落に群生している。吹田市内ではここでしか確認されていない。団地建て替え工事のために消滅したと思われていたが、2021年には復活していた。吹田レッドリスト2021で絶滅種としたが、Aランクに改定した。

ウマノスズクサ(ウマノスズクサ科)

ランク 吹田市:A



図 ウマノスズクサ

【種の特徴】

川の土手や畑、林縁などに生えるつる性の多年草。全体に無毛で粉白を帯びる。茎は細く丈夫でよく分枝し、他の木や草に絡みつく。葉は互生し、長さ4～7cmの三角状狭卵形。基部は心形で両側が耳状に張り出す。花期は7～9月で、花弁がなく楽器のサクソフォンに似た湾曲した萼筒の花を葉腋に1個ずつつける。ジャコウアゲハの食草となる

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内では少ない。阪大構内でも確認されていたが現在は不明で、江の木町のみである。2010年に千里丘で確認されたが、現在は不明である。

オオバウマノスズクサ(ウマノスズクサ科) ランク 吹田市:A



図 オオバウマノスズクサ

【種の特徴】

川の土手や畑、林縁などに生えるつる性の多年草。全体に無毛で粉白を帯びる。茎は細く丈夫でよく分枝し、他の木や草に絡みつく。葉は互生し、長さ4~7cmの三角状狭卵形。基部は心形で両側が耳状に張り出す。花期は4~6月で、ウマノスズクサとよりも早く、花卉がなく楽器のサクソフォンに似た様子は同じで、湾曲萼筒入口付近は濃い紫褐色をしている。また、やや上から覗くと黄色く紫褐色の斑点模様になっている。ジャコウアゲハの食草となる。

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内では少ない。葉の形状からアリマウマノスズクサと混同されている。万博公園で20年来観察されておられた方が花を確認されておらず、今回、移植栽培して開花(2024.5.5開花、古江台にて)を確認したものであり、万博公園内では他にも数ヶ所見られるが、開花が見られず、種は不明である。

コケオトギリ(オトギリソウ科)

ランク 吹田市:A



図 コケオトギリ

【種の特徴】

野原や休耕田など湿ったところに生える小型の1年草または多年草。茎は繊細な4稜形で高さ3~30cmになり上部で枝分かれする。葉は長さ0.5~0.8cm、幅3~8mm広卵形で日に透かすと半透明の明点が見えるが、他のオトギリソウ属と違い黒点はない。秋には紅葉する。花期は7~9月で、先端に黄色い直径5~8mmの小さい花を咲かせる。

【選定理由】

大阪府、国など指定はない。吹田市内では青山台(北千里)にあるが、少ない。湿った場所など生育地が限られており、環境の変化で絶滅の危機がある。

イヌザクラ(バラ科)



図 イヌザクラ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

夏緑高木で、高さ 10m ほどになる。幹は暗灰色で、やや光沢がある。葉は長楕円形で、長さ 6~10cm で、幅 2.5~3.5cm。先は尖り、基部は楔形で、縁は細かいきょ歯があり、やや波うつ。両面はほとんど無毛。花は白色で、4 月~5 月に前年の枝から側生し、短い花茎を持つ。

【選定理由】

各地の里山に生育するが、吹田市内では北千里の千里第 2 緑地のみで、数本しか確認されていない。

リンボク(バラ科)



図 リンボク

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

常緑中木で、高さ 10m になる。樹皮は紫がかった黒色。葉は長さ 5~8cm、狭長楕円形ないし狭倒卵形で咲きは尾状に尖る。若い木の葉は鋭いきょ歯があるが老木になると無くなる。花は 9 月頃に穂状になって咲く。果実は翌年の 6 月頃に熟す。

【選定理由】

関西の照葉樹林ではよく見られる樹木であるが、吹田市内では千里第 2 緑地のみでしか確認されておらず、本数も少ない。

ウメモドキ(モチノキ科)



図 ウメモドキ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

湿地に生育する高さ 2～5m の落葉低木で雌雄異株。葉は互生し、楕円形～長楕円形で長さ 3～8cm、幅 1.5～3cm。先端はとがり、基部は鋭形、細かく鋭い鋸歯がある。花期は 5～7 月で、本年枝の葉腋に淡紫色の花を咲かせる。9～10 月に直径 5mm の球形の実が赤く熟す。落葉した後も実は枝に残るため良く目立つ。

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内では青山台(北千里)、紫金山公園、長野公園に生えているが少ない。環境の変化で絶滅の恐れがある。

リョウブ(リョウブ科)



図 リョウブ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

夏緑樹林には普通の樹木で、高さ 10m に達する。樹皮は茶褐色で、まだらにははげて落ちる。葉は互生し、長さ 10cm、幅 3cm、卵状楕円形で縁にきょ歯がある。枝の先に集まって着く。花は 7 月～8 月にかけて穂状につく。

【選定理由】

全国に分布し、里山林など夏緑樹林に普通であるが、吹田では弘済院と南千里公園でしか確認されていない。吹田市としては希少な樹木である。

ケアクシバ(ツツジ科)



図 ケアクシバ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

山地の林縁に生育する高さ 0.5~1m の落葉低木。若い枝は緑色で古くなる黒褐色になる。葉は互生し薄く、卵形~広披針形で長さ 2~6cm、幅 1~3cm。先端はとがり、基部は円形~浅いハート型で細かい鋸歯がある。花期は 6~7月で葉腋に淡紅色の花が1個ずつ垂れ下がってつく。若い枝や花柄に短毛と腺毛があることが類似種のアクシバとの識別点となる。

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内では藤白台(北千里)の1ヶ所のみである。

フデリンドウ(リンドウ科)



図 フデリンドウ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

日当たりの良い背の低い草地に生える小さな多年草。葉は 0.5~1cm で対生し、無毛。茎は伸びると 5~10cm になる。花は4月で、地際に咲いていることが多い。

【選定理由】

吹田では青山台の法面と万博記念公園に生育しており、他では見られない。背の低い草地を好むので、草刈りがされないと消滅する恐れがある。

アイナエ (マチン科)



図 アイナエ

ランク 吹田市:A 大阪府:CR+EN 近畿:C

【種の特徴】

日当たりの良い湿った原野に生える小さな1年草。花茎を除いて高さ0.5~1cmで葉は下部の節に数対つき、卵形~長楕円形。長さ0.7~1.5cm、幅0.3~0.6cmで先端はやや尖り3本の脈がある。花期は8~9月で、茎頂と葉腋から2~10cmの花茎を1~3本伸ばし、直径2.5mmの白い鐘状の花をまばらにつける。

【選定理由】

国では指定がないが、近畿ではCランク、大阪府では絶滅危惧I類(CR+EN)に指定されている。吹田では青山台の1, 2ヶ所に生育しているのみで、環境が変われば絶滅する恐れがある。交野市の大阪市立大学理学部附属植物園に生育していることが報告されている。

イヌセンブリ (リンドウ科)



図 イヌセンブリ

ランク 吹田市:A 大阪府:VU 近畿:C 国:VU

【種の特徴】

日当たりの良い湿地に生える1年草または越年草。茎は直立し、しばしば基部から分枝して高さ5~30cm。葉は対生して倒披針形。長さ2~5cmで先端は鈍い。花期は10~11月で、白色で淡紫色の筋があり、直径約15mm。花冠の裂片は長さ8~10mm、基部に2個の密腺溝(虫を誘引するための蜜を分泌する器官)があり、縁に長い縮れた毛がある。センブリに比べて苦みが少なく、薬用にはされない。

【選定理由】

国および大阪府では絶滅危惧II類(VU)に指定されている。青山台の法面に複数の株が斜面に細々とひろがる場所があるが、草刈りが定期的に行われないと生息できない。吹田市内では青山台でしか確認されていない。

コカモメヅル(キョウチクトウ科)



図 コカモメヅル

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

山野の草地に生えるつる性の多年草。茎は細くて長く伸びる。葉は対生し、三角状の卵形～卵状披針形で先はとがる。長さ 3～8cm、幅 1～3cm で基部は浅心形で 3～25mm の葉柄がある。花期は 7～8 月で、花序は葉腋につきよく分枝して基部の葉より長くなる。花は小さく直径 4～5mm で暗紫色。5 深裂して裂片は三角形で、先端はやや捻じれる。

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内では少ない。青山台のみで数株しか確認されていない。草刈りが定期的に行われないと生息できない。

オギノツメ(キツネノマゴ科)



図 オギノツメ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

田の畦や溝などの湿った場所に生える多年草で、茎は四角で、あまり枝分れせず、高さ 30～60cm になる。地下茎は横にはい、節から根を出す。葉は線状披針形から披針形で対生する。葉は長さ 5～10cm、幅 5～15mm で、縁は全縁となる。秋に葉腋に数個ずつ紫色の花をつける。

【選定理由】

大阪府、国などの指定はないが、水田環境の変化に伴い、これから減少すると思われる植物である。吹田市では青葉丘南の水田畦畔でしか確認されていない。

ミゾコウジュ(シソ科)

ランク 吹田市:A 大阪府:NT 近畿:C 国:NT



図 ミゾコウジュ

【種の特徴】

湿った草地や畦に生える越年草。高さ 30～70cm で直立し、茎は 4 稜あって下向きの細毛がある。根出葉（根元から出る葉）は冬にはロゼット状に広がるが、花期には枯れる。茎葉は対生し、長楕円形で長さ 3～6cm、幅 1～2cm。表面は脈が凹み、細かいしわが目立つ。花期は 5～6 月で、枝先に花穂を出し 4～5mm の淡紫色の唇形花を多数つける。

【選定理由】

国および大阪府で準絶滅危惧 (NT)、近畿で C ランクとなっている。万博記念公園の 1 ヶ所の芝地に広い範囲で生育するが草刈りが定期的に行われないと生息できない。

ツルニガクサ(シソ科)

ランク 吹田市:A



図 ツルニガクサ

【種の特徴】

山地の木陰に生える多年草。茎は直立し、高さ 20～40cm で地下に細長い走出枝を出す。葉は長さ 1～2cm の柄があり、長楕円形で長さ 4～10cm、幅 1.5～5cm で全面に腺毛がある。花期は 7～9 月で、長さ 3～5cm の花序を出し、一方向に偏って密に 4～5mm の淡紅色の唇形花をつける。萼は 5 裂し、全面に腺毛がある。

【選定理由】

国、近畿、大阪府レッドリストでは指定がない。万博記念公園の樹林内の 1 ヶ所に生育するのみである。

イヌノフグリ(オオバコ科)



図 イヌノフグリ

ランク 吹田市:A 近畿:準 国:VU

【種の特徴】

道端や土手の草地および石垣の間に生える1年生草本。茎は横にはい、先は斜上する。葉は0.6から1cmで卵形。春に3~5mmの花をつける。

【選定理由】

国のレッドリストでは準絶滅危惧種(NT), 近畿では準絶滅危惧種に指定されている。吹田市内では絶滅したと思われていたが、2022年に植村修二氏によって佐竹台で発見された。団地法面で植え込みの下にあるため、除草される恐れがある。吹田市での確認は本地のみである。

カワヂシャ(オオバコ科)



図 カワヂシャ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT 近畿:準 国:NT

【種の特徴】

田の溝や池の縁に生える二年草で、高さ20~60cmになる。葉は楕円状披針形で、対生し、縁に細かい鋸歯があり、基部は茎を抱く。5月頃に葉の付け根から花茎が伸び穂状に花をつける。

似た種類に外来のオオカワヂシャがあるが、大型で繁殖力が強く、また、カワヂシャと交雑し、雑種を作ることから特定外来生物に指定されている。

【選定理由】

国および近畿では、準絶滅危惧(NT)に、大阪府では、絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。吹田市では岸部北のハス池、水遠池、万博記念公園で確認されているのみである。変わりやすい環境に生えているので、絶滅する恐れがある。

キクモ(オオバコ科)



図 キクモ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

水田や浅い沼などの水中に生える多年草。葉は水中と水上とでは形態が大きく違う異形葉である。水中の沈水葉は糸状に裂け、水上の抽水葉は5~8輪生して長さ1~2cm、幅3~7mmで菊の葉のように羽状に深く裂ける。花期は8~10月で、抽水葉の葉腋に紅紫色の唇形花をつける。沈水葉にはしばしば閉鎖花がつく。

【選定理由】

国および近畿、大阪府では、指定されていないが、他府県では指定がある。水田雑草であり、三保ヶ池(青葉丘)横の田んぼで確認されている。他に、2010年に千里丘で確認されたが、現在は不明。

リュウノウギク(キク科)



図 リュウノウギク

ランク 吹田市:A 大阪府:CR+EN 近畿:C

【種の特徴】

草原や林縁などに生育する多年生草本。茎は40~80cmになり、上部には毛がある。葉は、長さ3~8cmで、3裂し、さらに小さく浅裂する。花は11月から12月にかけて咲き、直径3~5cmである。葉を揉むと竜腦に似た香りがするので、この名がついた。

【選定理由】

吹田では北千里公園にあって絶滅したと考えられていたが、2021年の自然環境調査によって弘濟院で再発見された。

オグルマ(キク科)



図 オグルマ

ランク 吹田市:A 大阪府:CR+EN 近畿:C

【種の特徴】

湿地や田んぼの畦に生育する多年草。高さ20～60cmで茎には軟毛があり、上部で枝分かれする。根出葉は花期には枯れてなくなる。茎葉は広披針形～長楕円形で長さ5～10cm、幅1～3cm。先端はとがり、基部はなかば茎を抱く。花期は7～10月で、枝先に3～4cmの黄色い頭花を1個ずつつける。種名は整然と放射状に並んだ舌状花を小さな車に見立てたもの。

【選定理由】

近畿ではCランク、大阪府で絶滅危惧I類(CR+EN)に指定されており、吹田市内でも万博記念公園で確認されているだけである。

アキノキリンソウ(キク科)



図 アキノキリンソウ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

日当たりの良い山野に生える多年草。高さ30～80cmで根出葉は花期には枯れることが多い。茎葉は互生し、卵形～卵状楕円形。長さ7～9cmで基部は細くなって葉柄に翼状に繋がる。花期は8～11月で枝先に散房状または総状に直径1.3cm程の頭花を多数つける。そう果は円柱形。冠毛は長さ約3.5mm。

【選定理由】

国および近畿、大阪府では、指定されていない。吹田市内では、北千里、紫金山(岸边北)、上山手町の2,3ヶ所に確認されているのみで、紫金山公園では絶滅した。

オトコヨモギ(キク科)



図 オトコヨモギ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

日当たりの良い山野に生える多年草。高さ 40～140cm で全体にほとんど毛がない。根出葉は開花時には枯れ、中部の葉は多くはへら状くさび形、長さ 4～8cm、基部は托葉状に茎を抱く。上半部に歯牙があるものから羽状に切れ込むものまで変化が多い。花期は 8～11 月で、円錐花序に直径 1.5mm の頭花を多数つける。

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内では少ない。生育地が開発(住宅建設)されたため藤白台の移植地にのみ存在している。

ミズオオバコ(トチカガミ科)



図 ミズオオバコ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT 国:VU

【種の特徴】

湖沼やため池、水路水田などに生える 1 年草。水中で生育する沈水植物である。横に這う茎はない。葉の大きさは水深によって異なり、長さ 10～30cm、幅 2～15cm の広披針形で長い柄がある。質は薄く、縁は波状に縮れる。花期は 8～10 月で、花茎を伸ばして水面に直径 2～3cm の白色または淡紅紫色を帯びた花をつける。

【選定理由】

国では絶滅危惧Ⅱ類(VU)、大阪府では準絶滅危惧(NT)になっている。2010年に千里丘で確認されたが、吹田市内では1ヶ所に生育しているのみである。

三保ヶ池(青葉丘)横の田んぼで、2010年に千里丘で確認されたが、現在は不明。

コオニユリ(ユリ科)



図 コオニユリ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

日当たりの良い湿った草地に生える多年草。長い匍枝をひき、葉腋にむかごはつけない。葉は線状披針形でまばらにつき、長さ8~14cm、幅0.5~1.2cmで柄はない。花期は7~9月で、茎頂に2~10個が総状につき、花被片は強く反りかえり内面には斑点がある。果実は長さ約3cmの楕円形でよく結実する。鱗茎は白色で苦みがなく、食用にされる。

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内では少ない。北千里でみられたが、2020年には生存確認ができておらず、絶滅した可能性がある。

ササユリ(ユリ科)



図 ササユリ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

山地の草地に生える多年草。西日本を代表するユリであり、葉が笹に似ていることから名づけられた。鱗茎は卵型で白色、苦みはない。茎は高さ0.5~1mとなる。葉はあまり多くつかず、互生し披針形で長さ8~15cm。花期は6~7月で、茎頂に長さ10~15cmの淡紅色で漏斗状の花を横向きに数個つける。花粉は赤褐色。

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内では北千里のみである。水遠池（北千里）で見られており、2000年頃の情報をもとに探したところ、2021年に複数個体の生息を確認した。

ソクシンラン(キンコウカ科)



図 ソクシンラン

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

日当たりの良い草地や山麓に生える多年草。地下に短い根茎がある。根出葉は多数叢生し、線形で長さ10～30cm。花期は4～6月で、花茎は高さ30～50cm。穂状花序は長さ15～20cmになり、全面に腺毛が密生する。淡紅色を帯びた白色で筒状の小さな花を多数つける。蒴果は倒卵形で長さ3～4cm。

【選定理由】

大阪府、国など指定はないが、吹田市内では少ない。青山台(北千里)の生育地が開発(住宅建設)されたため移植地にのみ存在している。

ヤマサギソウ(ラン科)



図 ヤマサギソウ

ランク 吹田市:A 近畿:A 大阪府:CR+EN

【種の特徴】

日当たりの良い草地に生える多年草。根は紡錘状に肥厚する。茎は高さ20～40cmでやや稜がある。葉は最下の1個が大きく、線状長楕円形で長さ5～11cm、幅1～1.5cm。基部はわずかに基部を抱く。鱗片葉は2～5個で披針形。花期は5～7月で、穂状に黄緑色の花を10個ほどつける。唇弁は舌状に垂れ下がり、長さ1～1.5cm。距は長さ1.2～2cmで後方に跳ね上がる。

【選定理由】

国の指定はなく、近畿ではAランク、大阪府では青山台で見つかったことから、大阪府レッドリストで絶滅危惧I類(CR+EN)に指定された。草刈りが定期的に行われないと生息できない。大阪府下では吹田を含め3ヶ所で確認されているだけである。

キンラン(ラン科)

ランク 吹田市:A 近畿:C 大阪府:VU 国:VU



図 キンラン

【種の特徴】

山地や丘陵地の林内に生える多年草。茎は直立して 30～70cm で稜線がある。葉は互生し、長さ 8～15cm、幅 2～4.5cm の広披針形で数脈あり厚く、先は鋭くとがり基部は茎を抱く。花期は 4～6 月で、茎頂に直径約 1cm の鮮黄色の花を 3～12 個つける。唇弁は、3 裂し、黄褐色の肥厚した隆起線がある。距は短い。

【選定理由】

国および大阪府のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、近畿地方ではCランクに指定されている。万博記念公園など限られた場所にしか生育していない。

2021年にレッドリスト2021が刊行された後に千里第4緑地で発見されたが、2022年に一部盗掘された。

コガマ(ガマ科)

ランク 吹田市:A 近畿:C 大阪府:NT



図 コガマ

【種の特徴】

高さ 120～150cm になり、葉は線形で幅 5～8mm で、ガマに似ているが細いガマより細い。茎の先に雄花がついて、続いて雌花がつく。雌花の穂の長さは、5～10cm。よく似たヒメガマは雌花と雄花の間があく。

【選定理由】

大阪府のレッドリストでは準絶滅危惧種(NT)に、近畿ではCランクになっている。山田北の水路に僅かにあるだけなので、貴重である。

ガマ(ガマ科)



図 ガマ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

高さ 150～200cm になり、葉は線形で幅 15～20mm で、コガマより広い。コガマと同様に茎の先に雄花がついて、続いて雌花がつく。雌花の穂の長さはコガマより長く、10～20cm。

【選定理由】

湿地によくみられる種であるが、吹田市では芳野町と山田北の水路にあるだけなので、貴重である。

オオアブラスキ(イネ科)



図 オオアブラスキ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

高さ 120～160cm になり、葉は線形で幅 0.8～1.5cm で、長さ 20～40cm。ススキの葉に似ているが、やや幅が広く、柔らかい。9～10月にかけて穂を出し、有柄と無柄の小穂が対になってつく。

【選定理由】

日本全国に分布していて、普通種であるが、吹田市内では藤白台の一角にしか生育していない。

カントウマムシグサ(サトイモ科)



図 カントウマムシグサ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

高さ30～120cmになり、葉は通常2個着き、鳥足状複葉となる。雌雄異株であるが、栄養状態が良くなると雄から雌に転換する。4月から5月に花が咲き、仏炎苞は緑色から紫色までである。花序付属体の先は混紡状に膨らむ。変異が多く、同定が難しいことも多い。東北地方から九州地方まで分布する。

【選定理由】

千里第4緑地の一角で10株程度確認されているだけである。吹田市内では他のテンナンショウ属の植物は見つかっておらず、この場所が唯一となっている。

オオシロガヤツリ(カヤツリグサ科)



図 オオシロガヤツリ

ランク 吹田市:A 近畿:C 大阪府:NT

【種の特徴】

ため池や畦畔などの湿った場所に生える1年生草本。高さ10～15cmで株状となる。花序は茎の先に集まってつく。

【選定理由】

大阪府のレッドリストでは準絶滅危惧種(NT)に、近畿地方ではCランクに指定されている。吹田市内では岸边北の水田畦畔でしか確認されていない。周辺の水田が開発され、本地も危機的な状況にある。

哺乳類

アカネズミ (ネズミ科)



図 アカネズミ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

頭胴長 83～140mm で、平野部から高山帯まで広く分布する。日本固有種の野ネズミの代表種。

夜行性で、ドングリやクルミなど種子が大好物。森林から田、畑、河原に生息し、地中に穴を掘り枯葉で巣を作り、子育てをする。

【選定理由】

万博記念公園で確認記録がある。30 年ほど前には紫金山公園でも確認されていたが、雑木林と農耕地の分断と減少で、生息環境の悪化のため減少している。

カヤネズミ(ネズミ科)



図 カヤネズミの巣

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

頭胴長 54～79mm で、ちょうど人間の親指ぐらいの日本で一番小さいネズミ。

ヨシ、オギ、ススキ、チガヤなどの草地が広がる河川敷や農耕地に生息し、葉を球状に編んで巣を作り、子育てをする。

【選定理由】

大阪府レッドリスト絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息環境の減少と悪化のため減少している。最近の記録がなく、2001年に千里北公園で確認記録がある。

ホンドギツネ(イヌ科)



図 ホンドギツネ

ランク 吹田市:A 大阪府:CR+EN

【種の特徴】

頭胴長 52～76cm で、里山から高山まで広く分布し、草地、農耕地、森林に生息する。

野ネズミ、鳥、昆虫類などの小動物や、果実などを食べる。土手や斜面に巣穴を掘り子育てし、秋まで家族で生活する。

【選定理由】

大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 (CR+EN) に選定されている。生息環境の減少と悪化のため減少している。

吹田では、2001年に山田で繁殖し、そのドキュメント映像が吹田ケーブル TV によって撮影された。その後も目撃情報が各地であり、最近では、万博記念公園で繁殖記録があり、2020年に紫金山公園で繁殖の情報がある。

ニホンアナグマ(イタチ科)

ランク 吹田市:A 大阪府:NT



図 アナグマ

【種の特徴】

頭胴長 40～60cm で、尾の長さは 14～16cm、体重は 12～13kg。本州から九州までの里山に生息する。

ミミズ、昆虫類、野ネズミ、鳥などの小動物や、果実などを食べる雑食性。土手や斜面に巣穴を掘り子育てし、秋まで家族で生活する。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅ギグ種 (NT) に選定されている。

2021 年に万博記念公園で確認された。特定外来生物のアライグマと競合し、追いやられる可能性もある。

ホンドテン(イヌ科)

ランク 吹田市:A



図 ホンドテン

【種の特徴】

本州、四国、九州の里山の森林に生息する。頭胴長 45cm、尾の長さは 19cm、体重 1～1.5kg である。

両生、は虫類、野ネズミ、鳥、昆虫類などの小動物や、果実などを食べる雑食性である。

【選定理由】

北千里地域で確認された。吹田市は森林地域が少ないので、本種も少ないと考えられる。

鳥類

キジ(キジ科)



図 キジ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

体長雄 81cm、雌 58cm で、雄の尾羽が長い留鳥。平地～山地の農耕地、草原、河川敷などに住んでいる。

日本の国鳥であり、おとぎ話の桃太郎に出てくることや春先の「ケン・ケン」との雄叫びから「雉も鳴かざば撃たれまい」といわれるほどポピュラーな鳥である。

【選定理由】

吹田市では万博記念公園を中心に大阪大学、千里北公園などに多数生息していて、万博探鳥会でキジの雄叫びを 50 回も聞いたことがあった。しかし、植えられた樹木の成長とともに少なくなり、2012 年(左写真)を最後に確認していない。その後、千里北公園で何回か観察しているが、今も繁殖しているかどうかわからない。

ゴイサギ(サギ科)



図 ゴイサギ (上 幼鳥、下 成鳥)

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

体長 58cm で太めのサギ。丘陵地～平地の河川や池近くの林にあるコロニーを作り集団繁殖する。五位鷺の由来は醍醐天皇が池にいる鷺を捕まえるよう指示したところ、おとなしくつかまったので、五位(殿上人)の位を与えたことによるとのことである。成鳥は頭～背、肩羽が紺色であるが、若鳥は写真(上)のように全体が褐色で白い斑点があり、ホシゴイと呼ばれている。

【選定理由】

吹田市では繁殖コロニーはなかったが、万博記念公園、千里北公園、千里第4緑地、原町などの池をねぐらとしていた。

原町(新からま池)は、今もゴイサギがねぐらとして利用している。

ケリ(チドリ科)



図 ケリ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT 国:DD

【種の特徴】

体長 36cm、キジバトほどの大きさの留鳥。水田、畑地、河川敷、そして大規模開発で放置されている裸地などに住む。繁殖中のヒナのいるとき、人やカラスが近づくと、「キリッキリッ」と名前の由来となっている大きな鋭い声で威嚇しながら近くを飛びまわる。

【選定理由】

吹田市では吹田操車場跡地(現 吹田貨物ターミナル駅)が繁殖の中心地で、原町、岸部中などの繁殖適地にも広がっていた。2023年には、山田西(旧郵政住宅跡地)で繁殖、3羽の子育てに成功した。

2024年以降も繁殖するかどうか、注目している。

コチドリ(チドリ科)



図 コチドリ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 16cm で夏鳥として渡来するチドリ。河川の川原など小石がごろごろしているような裸地や、大規模開発地で工事が長引き、草がほとんどない荒れ地が繁殖個所となっている。

【選定理由】

吹田市では吹田操車場跡地（現 吹田貨物ターミナル駅）に繁殖していて、近隣の空き地（原町旧日本運送跡地）などにも広がっていたが、ここ数年で繁殖地が無くなったと思われる。

万博記念公園では春の渡りの季節に観察できる。

オオタカ(タカ科)



図 オオタカ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT 国:NT

【種の特徴】

体長雄 50cm、雌 58cm とほぼカラス大で留鳥のタカ。平地～山地の林、里地などで繁殖していて、最近では市街地の公園や社寺林での繁殖も報告されている。ムクドリ、ハト、そして体がほぼ同じ大きさのカラスなども餌としていて、里山・里地の生態系のトップにいることから、自然環境の指標とされていた。最近関東を中心に生息数が増加しているとして準絶滅危惧種 (NT) にランクダウンした。

オオタカの名前は大きなタカではなく、雄の背から翼にかけての蒼色から「アオタカ→オオタカ」に変化したものである。

【選定理由】

吹田市では万博記念公園で 2007～2014 年の間、営巣子育てをしたが、その後の繁殖は確認されていなかった。2023 年には久しぶりに繁殖し、誕生したヒナが巣立ちした直後、枝移りに失敗、落下したらしく死亡した。2024 年以降も繁殖・子育てを期待している。

チョウゲンボウ(ハヤブサ科)

ランク 吹田市:A



図 チョウゲンボウ

【種の特徴】

体長は雄 33cm、雌 39cm でハトより少し大きな猛禽類。留鳥として平地～山地の河川沿いや採石場などの崖地に営巣する。最近、河川近くのビルディングに崖をイメージしたらしく、淀川沿いなどでの繁殖が多くなっている。

【選定理由】

吹田市では 2011 年に山田南(武田薬品工業内)でヒナが保護されたことがあり、また、2014 年に紫金山公園でエサ運びが確認されている。

今後は安威川沿いのビルや、橋げたでの繁殖を期待したい。

ヒバリ(ヒバリ科)

ランク 吹田市:A 大阪府:NT



図 ヒバリ

【種の特徴】

体長 17cm とスズメより大きい留鳥。農耕地、河川敷、草地などに生息していて、歌手美空ひばりで有名になった。さえずりを「ピーチク・ピーチク」と表現されているが、もっと複雑なさえずりで、空高くホバリングしながら飛び続ける特徴があり、和名の「雲雀」が納得できる。

【選定理由】

吹田市では、万博記念公園に 2000 年頃まで、その後も吹田操車場跡地に繁殖していたと思われるが、今は生息適地が無くなり、数年に一度姿を観察できる程度になっている。

コシアカツバメ(ツバメ科)



図 コシアカツバメ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 19cm とツバメよりやや大きい鳥。夏鳥として平地～山地の市街地や集落に渡来し、マンションや橋げたなどに、徳利を半分に切った形の巣が並んでいる。

ツバメと同じように田んぼ、池、川などの上を飛びながら、ユスリカなどの昆虫を捕えている。

【選定理由】

吹田市のツバメ調査で1998年には名神高速道路の橋げた3か所(釈迦が池、千里ぎんなん通り、府道1号線)にコシアカツバメのコロニー(集団営巣地)があった。阪神大震災後の名神高速道路の補強工事で巣が除去され、2010年調査時には無くなった。

2022年に古江台の空き住宅で繁殖子育てが確認されたが、住居建て替えによる再開発のため営巣場所は無くなった。

オオヨシキリ(ヨシキリ科)



図 オオヨシキリ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 18cm、夏鳥として渡来し、平地の河川敷やため池のヨシ原で繁殖する。ヨシの葉先から「ギョギョシ・ギョギョシ」と大きな赤い口を開けてさえずることから、「行々子」の別名がある。

【選定理由】

吹田市では1997年頃吹田操車場跡地でさえずりが確認されているなど、場内のヨシ原で繁殖していた可能性があるが、今は無くなった。また安威川河川敷のヨシ原が適地であるが、吹田市側にヨシ原が無い。

春の渡りの季節に繁殖地への移動の途中に、万博記念公園などで観察されている。

セツカ(セツカ科)



図 セツカ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 13cm とスズメより小さい。夏鳥として渡来し、平野部の草原、河川敷などで、ホオジロやキジよりも草丈の低い所で繁殖する。
さえず 囀りながら飛翔する時、「ヒッヒッヒッ」の声で上昇、「チャッチャッチャッ」の声での下降と、異なる鳴き声を繰り返しながら、飛び回っている。

【選定理由】

吹田市では 2011 年頃、安威川（川園町）で囀りディスプレイ飛行が確認されており、また、吹田操車場跡地でも繁殖していた可能性がある。

しかし操車場跡地は改変され、吹田市内での繁殖はなく、観察もほとんどできなくなっている。

キビタキ(ヒタキ科)



図 キビタキ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

体長 13.5cm とスズメより小さい夏鳥。山地の広葉樹林などに繁殖しているが、近年平地に繁殖範囲を広げている。春の渡り時に都市周辺の公園や緑地の樹林で観察できるが、そこが繁殖適地として選ばれるようになったようで、平地での繁殖例が多くなっている。

【選定理由】

吹田市では 2005 年高野台千里第 4 緑地で初めて繁殖を確認、その後も万博記念公園などで繁殖期にさえずりが聞かれ、繁殖が確実視されていたが、2014 年に幼鳥が観察された。万博記念公園では繁殖が継続されており、千里北公園、紫金山公園などでの繁殖も期待される。

コサメビタキ(ヒタキ科)



図 コサメビタキ

ランク 吹田市:A 大阪府:VU

【種の特徴】

体長 13cm とスズメより小さい夏鳥。山地の広葉樹林などに繁殖していた。春の渡り時に都市周辺の公園や緑地の樹林で良く観察できるが、そこが繁殖適地として選ばれるようになったようで、2023 年万博公園での幼鳥を観察した。

【選定理由】

吹田市では春秋の渡りの季節に市内の公園各所で観察されていたが、2023 年万博公園で3羽の幼鳥を確認した。大阪府の平野部、標高 100m 以下の樹林での繁殖は初記録であり、今後も続くことを期待したい。

ホオジロ(ホオジロ科)



図 ホオジロ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

体長 16.5 cm でスズメよりやや大きく、平地～山地の樹林、林縁、草原、河川敷などに住む留鳥。住宅と田んぼの続く里地では、スズメよりも多いといわれているほど身近な鳥である。春に木の天辺から「一筆啓上仕り候」と聞きなし（人間の言葉に当てはめて聞くこと）されているさえずりを聞くことができる。

【選定理由】

吹田市では万博記念公園で植樹された樹木が育ったことから1990年ごろから繁殖しなくなり、吹田操車場跡地も改変され、ホオジロの繁殖が確認できなくなっている。

今は、冬鳥として越冬に来た個体を、時々観察するのみである。

は虫類

ニホンイシガメ(イシガメ科)



図 ニホンイシガメ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT 国:NT

【種の特徴】

甲長 20cm ぐらいまで大きくなる日本固有種のカメ。

川の中流から上流や、池、沼、水田に生息し、5月頃よく水田に移動し、6月頃田んぼの畔や畑、池川の土手に産卵する。

【選定理由】

国および大阪府のレッドリストで準絶滅危惧(NT)に選定されている。生息環境の改変、消滅などのため。吹田市内では、千里第4緑地で確認記録がある。

ニホンスッポン(スッポン科)



図 ニホンスッポン

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

本州、四国、九州に分布し、甲羅は扁平で、長さ 35cm になる。甲羅は他のカメ類と違って硬くならない。魚、カエル、昆虫類などを食べる。

【選定理由】

吹田市内のため池はよく調べられていないが、今のところ確認されているのは千里第 4 緑地内にある名無し池と高町池および原町の馬池だけである。吹田市内のため池は河川と分断されているため、移動は困難であると考えられる。

アオダイショウ(ナミヘビ科)



図 アオダイショウ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

体長約 1m であるが、最大 2m ぐらいになることもある。毒はない。臭い匂いを出す。人里から奥山の森林まで広く分布し、木にもよく登り、ネズミや鳥の卵、小動物を捕食する。

成蛇はオリーブがかった褐色だが、幼蛇は、褐色の鎖模様がありよくマムシと見間違われる。

【選定理由】

生息環境の改変、餌の減少、捕殺、ロードキル(道で車などにひかれる)などの影響により減少している。

吹田市内では、弘済院、万博記念公園で確認記録がある。

シマヘビ(ナミヘビ科)



図 シマヘビ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

体長 80～150cm で、人里から山地まで様々な場所で生息する。毒はないが、気性が荒くよく咬みつく。虹彩が赤く、体の背面に4本の黒い縦縞が入るが、全身が真っ黒い個体もいる。

幼蛇には横縞模様が入る。

【選定理由】

生息環境の改変、餌の減少、捕殺、ロードキルなどの影響により減少している。吹田市内では、弘済院、紫金山公園、万博記念公園で確認記録がある。

ジムグリ(ナミヘビ科)



図 ジムグリ

ランク 吹田市: A

【種の特徴】

体長 80～120cm で、山地を中心に広く生息する。毒はない。頭と胴にくびれがなく、地中に潜りやすい体型で、土にもぐりネズミなどを捕食する。背面は赤茶色、腹面に黒い市松模様が入る。幼蛇は、背面に模様が入り美しい。

【選定理由】

生息環境の改変、餌の減少、捕殺、ロードキルなどの影響により減少している。

ヒバカリ(ナミヘビ科)



図 ヒバカリ

ランク 吹田市:A 大阪府:VU

【種の特徴】

体長 40～60cm で、人里から山地まで広く分布し、水田や湿地を好む。カエル、オタマジャクシ、ミミズなどを捕食する。毒はなく、背面は褐色で口角から頸部にかけて斜めに白っぽい帯がある。

【選定理由】

大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類(VU)に選定されている。生息環境の改変、餌の減少、捕殺、ロードキルなどの影響により減少している。吹田市内では、内本町、紫金山公園、佐井寺、千里第2緑地で確認記録がある。

両生類

ニホンアマガエル(アマガエル科)

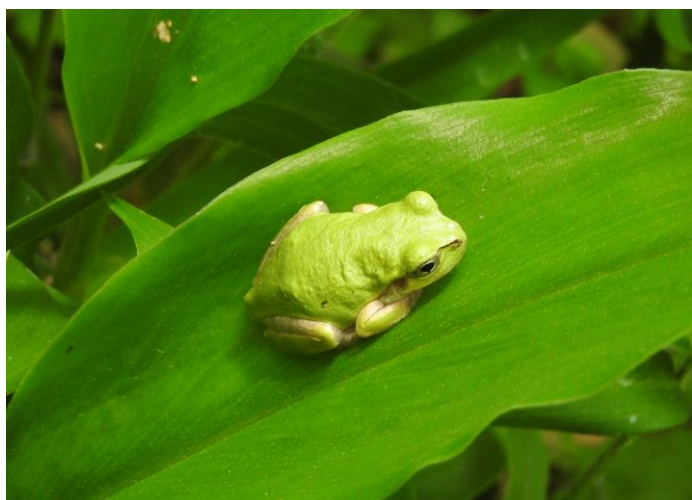


図 ニホンアマガエル

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

体長 20～45mm で、足の指には吸盤があり、葉や壁などに止まることが出来る。周囲の色に合わせて体色を変えることがで、天敵から逃れる。春に水田やため池などの止水域に集まり、卵を産む。約1ヶ月でオタマジャクシから成体に変化する。

【選定理由】

吹田市内では新芦屋上、千里山竹園、万博記念公園などで確認されている。産卵場所の水田が減少し、移動性は高いものの水田や緑地が分断されて存在しているため、移動が困難であると考えられる。

ニホンアカガエル(アカガエル科)



図 ニホンアカガエル

ランク 吹田市:A 大阪府:VU

【種の特徴】

体長 35～67mm で、黒褐色から赤褐色の里山のカエル。ヤマアカガエル、タゴガエルと似るが、背側線が直線であるなどの識別ポイントがある。平野部から丘陵地の水田、湿地に 1～3 月に塊状の卵を産卵、再び地中に冬眠し、暖かくなると周辺の草むら林床で生活する。乾田化すると産卵場所を失い激減している。

【選定理由】

大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類(VU)に選定されている。圃場整備や、コンクリートの水路などの生息環境の改変のため減少している。吹田でも、45 年ほど前には、原町や岸辺の田んぼでも生息していたが、現在は万博記念公園だけが唯一確認記録がある。

トノサマガエル(アカガエル科)



図 トノサマガエル

ランク 吹田市:A 大阪府:NT 国:NT

【種の特徴】

体長 38～81mm で、背面の地色は緑色もしくは灰褐色で、黒色の斑紋があるカエル。オスは繁殖期に黄金色の婚姻色に変化する。平野部から低山地の水田、湿地、浅い池に 5 月頃シート状の卵を産卵、周辺の草むらや林床で生活する。近隣の平野部から丘陵地にはよく似たダルマガエルも生息しているが、吹田市では、絶滅したと思われる。

【選定理由】

国および大阪府レッドリスト準絶滅危惧(NT)に選定されている。圃場整備や、コンクリートの水路などの生息環境の改変のため減少している。吹田市内では、山田西、千里丘、紫金山公園、岸辺北、万博記念公園で確認記録がある。

昆虫

ホソミオツネトンボ(アオイトトンボ科)

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

体長 35～42mm で 6～8 月にかけて羽化し、成虫で越冬する。成熟個体では水色で腹部は黒い斑紋がある。雌は褐色の個体が多い。平地や山地の抽水植物が繁茂する沼、ため池、流れの緩い河川で繁殖する。

【選定理由】

2011 年の吹田の自然では紫金山公園での記載があったが、それ以降は見つかっていない。万博記念公園での報告があるが、砂子谷新池でも新たに見つかった。



図 ホソミオツネトンボ

オツネトンボ(アオイトトンボ科)

ランク 吹田市:A 大阪府:NT



図 オツネトンボ

【種の特徴】

体長 37～41mm で、成虫で越冬する。成虫は褐色で、成熟してもあまり色は変化しない。ほぼ全国に分布しているが、九州、四国南部と近畿地方北部には分布していない。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。2011 年の吹田の自然で万博記念公園での報告があるが、砂子谷新池でも新たに見つかった。平地や山地の抽水植物が繁茂する沼やため池で繁殖する。

キイトンボ(イトトンボ科)

ランク 吹田市:A 大阪府:NT



図 キイトンボ

【種の特徴】

体長 35～46mm、成虫は、6～9 月に見られ、ほぼ体全体が鮮やかな黄色で、腹部が太めの特徴的なイトトンボの仲間。メスは黄色味がうすい。

平野部から丘陵地の水生植物が良く茂った池や、湿地に生息する。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息地のため池や湿地の環境が悪化したり、減少したりしている。吹田市内では、海老池、蓮間池、水遠池、高町池、万博記念公園で確認記録がある。

ベニイトトンボ(イトトンボ科)



図 ベニイトトンボ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT 国:NT

【種の特徴】

体長 36～43mm で、成虫は、6～10 月に見られ、オスは体全体が、鮮やかな熟したトマト色で、メスは腹部が薄い橙色から黄緑色のイトトンボの仲間。

平野部から丘陵地の樹林に囲まれた水生植物が豊かなため池や、沼に局地的に生息する。どちらかと言うと古いため池に多い。

【選定理由】

国および大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。国内では、絶滅した地域が増えている。吹田市内では、2007 年に吹田自然観察会の「吹田ベニイトトンボ調査報告書」によると、ピアノ池、高町池、名無し池、海老池、犬飼池で確認記録があるが、ここ数年確認記録が無い。

オオイトトンボ(イトトンボ科)



図 オオイトトンボ

ランク 吹田市:A 大阪府:CR+EN

【種の特徴】

体長 27～39mm で、成虫は、5～8 月頃まで見られ、平地から山間部の植生のあるため池や湿地に生息するイトトンボの仲間。セスジイトトンボ、ムスジイトトンボ、クロイトトンボと似た種が多く、後眼紋(複眼の上面後頭部にある紋)が、西洋梨型であることなどの識別ポイントがある。

【選定理由】

大阪府レッドリスト絶滅危惧 I 類 (CR+EN) に選定されている。近年西日本で激減しているとされていて、生息環境が改変され、減少している。吹田市内では、2000 年に、釈迦が池東側の「メダカの田んぼ」(現在はマンションが建設されてない)で、確認記録がある。

セスジイトトンボ(イトトンボ科)



図 セスジイトトンボ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 27～37mm、成虫は、5～10 月に見られ、平野部から丘陵地の日当たりが良く水草の多い池、沼や、緩やかな流れのある小川に生息するイトトンボの仲間。

ムスジイトトンボ、オオイトトンボに似るが、眼後紋(複眼の上面後頭部にある紋などの識別ポイントがある。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息環境が改変されたり、減少したりしている。

吹田市内では、2005 年に高町池、竜ヶ池、蓮間池、菩提池、三保ヶ池、春日地区など多くの記録があったが、最近の確認記録が少なく、2010 年以降は、万博記念公園で確認記録がある程度である。

ホソミイトトンボ(イトトンボ科)



図 ホソミイトトンボ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 28～37mm、成虫は、5～10 月に見られ、平野部から丘陵地のやや透明度の高い沼やため池に生息する。成虫で越冬する。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。万博記念公園での報告があるが、砂子谷新池でも新たに見つかった。

ウチワヤンマ(サナエトンボ科)



図 ウチワヤンマ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 76～84mm で、成虫は、6～10 月に見られ、名前にヤンマと付くが左右の複眼が離れているのでサナエトンボの仲間。腹部の先がウチワ状に広がり、そこに黄色い斑紋がある。黄色い斑紋が無ければタイワンウチワヤンマである。平野部から丘陵地の水深のある大きな池、湖に生息する。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息環境であるため池が減少したり、環境が悪化したりしている。吹田市内では、2000 年以前の記録によるとほとんどの池に記録があったが「すいたの自然 2011」では、三保ヶ池、水遠池、の記録にとどまっている。万博記念公園では毎年確認されている。

トラフトンボ(エゾトンボ科)



図 トラフトンボ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 50～58mm で、成虫は、4～6 月の春早くに出現し、腹部に濃い黄色と黒の虎斑 (トラフ) 模様があり、メスは腹の先に卵塊を作り、水面に放卵するエゾトンボの仲間。

平地から丘陵地の水生植物が豊かなため池に生息する年 1 化性 (年に 1 回だけ成虫が発生する) のトンボである。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。個体数も少なく、年 1 化で出現時期が早いため、見つけにくく、環境の改変を受けやすい種である。吹田市内では、記録が少なく、2019 年に万博記念公園で確認記録があるだけである。

アオヤンマ(ヤンマ科)



図 アオヤンマ

ランク 吹田市:A 大阪府:VU 国:NT

【種の特徴】

体長 67～78mm、成虫は5～8月に出現し、緑とコバルトブルーの模様が非常に美しい中型の大きさのヤンマである。平野部から丘陵地のヨシ、ガマ、マコモが広く生い茂ったため池、湿地に生息する。

【選定理由】

国レッドリスト準絶滅危惧(NT)、大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類(VU)に選定されている。生息環境の悪化、減少、農薬の影響など、かなりひっ迫している。吹田市内では、唯一 2005 年に阪大の遊水池で確認記録がある。

カトリヤンマ(ヤンマ科)



図 カトリヤンマ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 67～76mm で、成虫は6～11月ぐらいの秋遅くまで見られ、色、体型に繊細な美しさを感じる中型の大きさのヤンマの仲間。雑木林と水田、ため池、湿地などがある里山環境に生息し、日中は薄暗い林の中静止している。夕方になると田んぼなどの開けた場所へ黄昏飛翔する。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧(NT)に選定されている。生息環境の悪化、減少と、田んぼによく産卵する種であるため農薬(アカネ類と同様に水田殺虫剤)の影響が懸念される。

吹田市内では、蓮間池、紫金山公園、万博記念公園で確認記録がある。

サラサヤンマ(ヤンマ科)



図 サラサヤンマ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 58～68mm で、成虫は、5～7 月に出現し、腹部 1,2 節が膨らみ、ぼてっとした体型が特徴。丘陵地から低山地の林や抽水植物がある湿地、緩い流れのある小川、沼に生息し、よくホバリングし占有行動する姿が見られる。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息環境の悪化、減少のため。吹田市内では記録は少なく、2007 年に千里第 4 緑地の海老池で写真が撮影されており、2020 年に万博記念公園で確認記録がある。

アキアカネ(トンボ科)



図 アキアカネ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 33～46mm で、日本の稲作文化に適応した赤とんぼの代表的な種である。成虫は、6 月に田んぼや池で羽化し、夏は山で過ごし 10 月頃平地へ戻り湿った田んぼに産卵する。他に似た種が多く、胸の模様や、翅の褐色部などで識別できる。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息環境の田んぼの減少、乾田化、農薬 (1990 年以降育苗箱に使用される殺虫剤) の影響により減少している。吹田市内では、千里北公園、わずかに残る紫金山公園の田んぼ、万博記念公園で、確認記録がある。

ナツアカネ(トンボ科)



図 ナツアカネ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 33～41mm で、アキアカネと並び日本の稲作文化に適応した赤とんぼの代表的な種である。アキアカネより少なく、大きさはやや小さい、オスは成熟すると全身赤くなる。

アキアカネと同じような環境に生息し、同様の生活史を持っている。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息環境の田んぼの減少、乾田化、農薬 (1990 年以降育苗箱に使用される殺虫剤) の影響により減少している。吹田市内では、千里北公園、わずかに残る紫金山公園の田んぼ、万博記念公園で確認記録がある。

マイコアカネ(トンボ科)



図 マイコアカネ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 29～38mm で、成虫は、6～9 月に見られ、成熟すると顔が青白くなり、舞子さんをイメージされて名付けられた、アカネ (赤とんぼ) の仲間。平野部から丘陵地の抽水植物が繁茂するため池、湿地に生息する。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息環境の改変より減少している。

吹田市内では、「すいたの自然 2011」によると、片山公園で記録されており、2018 年に万博記念公園で確認されている。

ヒメアカネ(トンボ科)



図 ヒメアカネ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 28～37mm で、成虫は、6～12 月に見られ、成熟した雄の顔面は灰白色で、雌は黄白色となる。また、雌は小さい眉状斑紋が出ることもある。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。湿地に多いが、生息環境の改変より減少している。吹田市内では、万博記念公園、紫金山公園で確認されているが、少ない。

コフキトンボ(トンボ科)



図 コフキトンボ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

腹長 22～30mm で、成虫は 5～10 月に見られシオカラトンボによく似るが、胸の模様、複眼の色が違い、一回り小さくしたトンボ。メスは地域によっては翅に帯状の斑が入るオビトンボ型がいる。

平野部から丘陵地の開けたため池、緩やかな流れの川に生息する。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息環境の改変、消滅のため。1993 年吹田市内 13 池調査では 7 箇所記録があったが、「すいたの自然 2011」では、確認されていない。万博記念公園では現在でも毎年確認記録がある。

シオヤトンボ(トンボ科)



図 シオヤトンボ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

腹長 24～29mm で、成虫は早春の 4～7 月まで見られ、シオカラトンボによく似るが、一回り小さくずんぐりした体型のトンボ。平地から低山地の田んぼ、湿地、ため池などがある里山環境に生息する。休耕田でよく見られる。

【選定理由】

里山環境で、最も普通にみられる種だが、吹田市内では、20 年間ほとんど記録がない。唯一万博記念公園で毎年確認記録がある。

ナニワトンボ(トンボ科)



図 ナニワトンボ

ランク 吹田市:A 大阪府:VU 国:VU

【種の特徴】

腹長 20～23mm で、瀬戸内海沿岸部のため池が多い地域だけに分布し、オスは赤くならず青くなるがアカネ(赤トンボ)の仲間。秋に水位が下がる林に囲まれたため池に生息する。成虫は 7 月頃羽化し林の中でひっそりと暮らす。

【選定理由】

国および大阪府レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に選定されている。かつての千里丘陵は、多くのため池がありナニワトンボが多産したと思われるが、生息環境の改変とため池の消滅のために激減した。最近では 2010 年に高町池、2013 年・2017 年に万博記念公園で確認記録がある。

ノシメトンボ(トンボ科)



図 ノシメトンボ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

腹長 24～32mm で、アキアカネと並び日本の稲作文化に適応した赤とんぼの代表的な種である。成虫は、6月に田んぼや池で羽化し、夏は山で過ごし10月頃平地へ戻り湿った田んぼに産卵する。翅の先端に褐色部があり、リスアカネ、コノシメトンボと似るが胸の模様が異なる。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息環境の田んぼの減少、乾田化、農薬 (1990 年以降育苗箱に使用される殺虫剤) の影響により減少している。吹田市内では、2000 年ぐらいまでは各地で記録があった。2020 年に万博記念公園で確認記録がある。

ヨツボシトンボ(トンボ科)



図 ヨツボシトンボ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

腹長 23～29mm で、成虫は4～7月に見られ、くすんだ黄金色、がっしりした体型に毛深い特徴のトンボ。翅の前縁部中ほどに4つの黒い紋がある。平野部から丘陵地の周辺に林とヨシ、ガマ、マコモが繁茂する池、沼、湿地に生息する。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息環境の改変のため激減している。吹田市内では、千里第4緑地名無し池、菩提池、万博記念公園で確認記録がある。

キトンボ(トンボ科)



図 キトンボ

ランク 吹田市:A 大阪府:VU

【種の特徴】

復長 21～31mm で、成虫は 6 月下旬から 12 月上旬に見られる。翅の前側が橙色になり、基部から半ばにかけても同様の色になる。

比較的水質の良い池を好む。

【選定理由】

大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。生息環境の改変や水質の悪化で激減している。吹田市内では、万博記念公園、砂子谷新池、水遠池、春日大池に見られる。

ハラビロトンボ(トンボ科)



図 ハラビロトンボ♀

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

復長 19～26mm で、5 月から 8 月上旬まで見られる。雌は黄色だが、雄は青白色となる。低地や丘陵地のヨシなどの抽水植物の繁茂する浅い池などに生息する。

【選定理由】

特にレッドリスト等に指定はされていないが、生息可能な抽水植物の繁茂するような浅いため池が吹田市内では少ないため、数が少ない。

ツマグロバッタ(バッタ科)



図 ツマグロバッタ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

体長は雄で 33～42mm、雌はやや大きい。後脚の関節の部分が黒いのが特徴。7月から9月に成虫になる。背の高い草地を好む。

【選定理由】

吹田市では 2021 年の自然環境調査で、春日で確認されたのみで、他では見られていない。

マツムシ(マツムシ科)



図 マツムシ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

体長は雄で 21mm、雌はやや小さい。やや背草丈の高い草原に住む。秋に成虫になる。

【選定理由】

吹田市では 2021 年の自然環境調査で、北千里で確認されているが、ほかでは見られない。新たに紫金山公園で見つかった。

ヤスマツアメンボ(アメンボ科)



図 ヤスマツアメンボ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 9～12mm で、メスの方がやや大きい。アメンボより一回り小さく、体と脚が茶色っぽい。山よりの林に囲まれた薄暗い小さな水溜まりや、湿地、池などに生息する。同じような環境に生息するよく似たコセアカアメンボには、オスの腹部に一对の黒斑がないことで識別できる。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。目立たない種で、似た種もあり吹田市内での記録は少ない。唯一千里山の環境アセスメントで記録がある。

ミズカマキリ(タイコウチ科)



図 ミズカマキリ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 40～45mm で、成虫は、5～7月に見られ、水田、池、沼や、緩やかな流れのある川で、水中に生息する。カマキリの鎌のような前脚を使い小魚やオタマジャクシを捕食する水性カメムシの仲間。お尻に非常に長い 2 本の鞘状の管で呼吸する。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息環境の改変、減少と水田殺虫剤の影響で激減している。吹田市内では、2006年 5 月 21 日と 2019 年 5 月 25 日に吹田市立千里第二小学校のプールでヤゴ救出作戦を行ったときに確認した。

ミドリシジミ (シジミチョウ科)



図 ミドリシジミ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

前翅の長さは 20mm 程度である。翅は緑色の金属光沢のある鱗粉で覆われている。日本には広く分布するが、四国、九州では分布範囲が限られている。食樹はハンノキで、卵で越冬する。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。ハンノキを食草としていて、吹田市内でハンノキはため池の周辺などにみられるものの、繁殖しているのは万博記念公園のみで、貴重である。

トラフシジミ (シジミチョウ科)



図 トラフシジミ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

成虫の大きさは普通種のベニシジミと同じかやや大きく、春早くから出現する里山環境に生息するシジミチョウの仲間。翅の裏の白と明灰色の縞模様から虎斑と名がつく。素早く飛ぶが、葉や花によく止まるので観察しやすい。幼虫の食樹は、フジ、ウツギ、クズなど

【選定理由】

市街地ではほとんど見られず、個体数もそう多くなく、里山環境の指標となる種である。吹田市内では、原町3丁目愛宕神社、紫金山公園、万博記念公園で確認記録がある。

オオムラサキ(タテハチョウ科)



図 オオムラサキ(雄)

ランク 吹田市:A 大阪府:NT 国:NT

【種の特徴】

前翅の長さは50~55mmで、雄の前翅は光沢のある青紫色となっている。雌は青紫色ではなく焦茶色である。大型のタテハチョウで日本の国蝶に指定されている。食樹はエノキで、幼虫はエノキの根元の落ち葉の裏で冬を越す。

【選定理由】

国および大阪府のレッドリストで準絶滅危惧(NT)に選定されている。食樹としているエノキは、吹田市内でも多く見られるが本種の確認があるのは万博記念公園だけであり、貴重である

ミドリヒョウモン(タテハチョウ科)

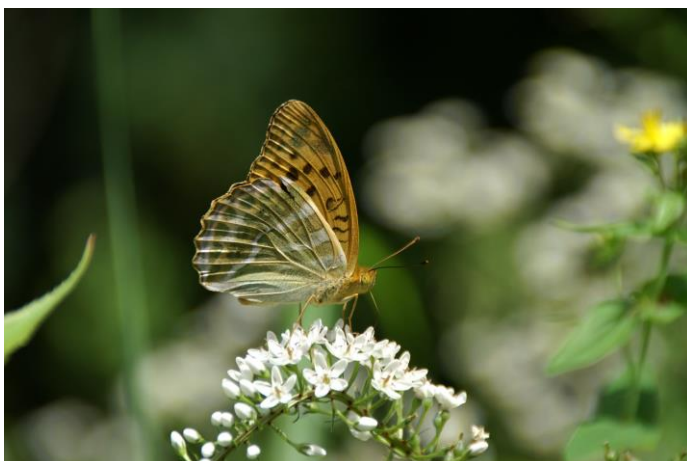
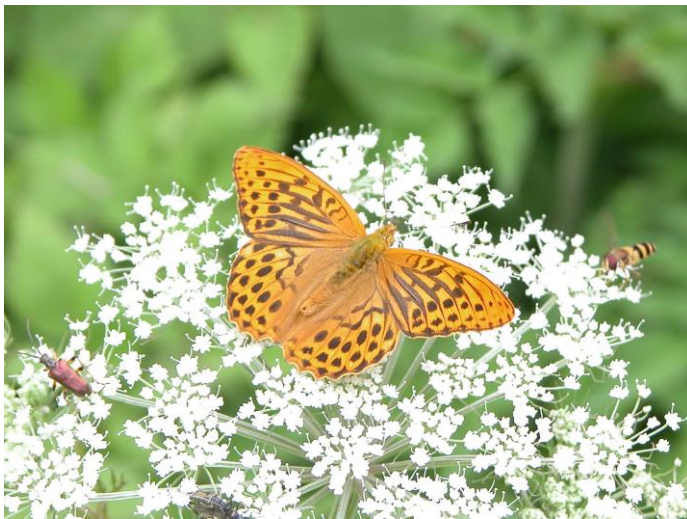


図 ミドリヒョウモン

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

近年よく見かけるツマグロヒョウモンと同じぐらいの大きさで、ヒョウモンチョウの仲間には、よく似た種が多い。ミドリヒョウモンは、後翅裏面が、鈍い緑がかった地色に白い帯が3本以上あるのが特徴。主に山地よりの林縁部に生息する。幼虫の食草は、タチツボスミレなどのスミレ類。

【選定理由】

ツマグロヒョウモン以外のヒョウモンチョウはほとんどの種が減少している。

吹田市内では、「すいたの自然 2001」によると弘済院で記録されており、2012年には万博記念公園で確認されている。

ヒオドシチョウ(タテハチョウ科)



図 ヒオドシチョウ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

前羽の長さが32~42mmで、橙色の地に黒斑がある。年1回夏に発生し、その個体が成虫で冬を越す。

【選定理由】

エノキを食樹としていて、吹田市内にはエノキは多いが、本種は少ない。越冬個体が、万博記念公園、千里北公園、紫金山公園で確認されているが少ない。

アサマイチモンジ(タテハチョウ科)

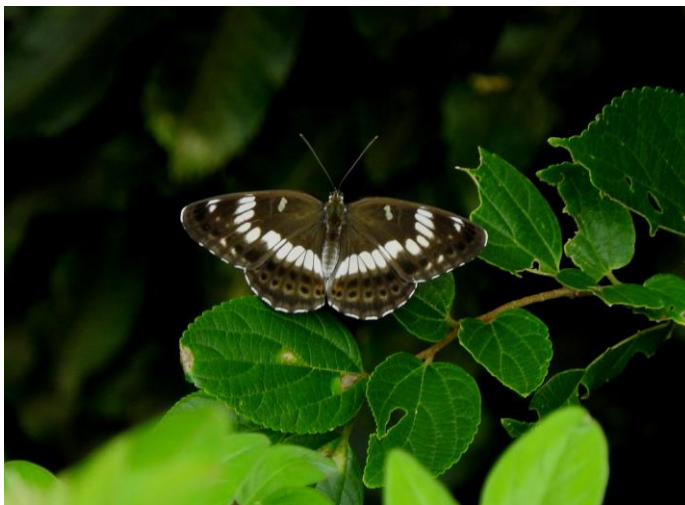


図 アサマイチモンジ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

モンシロチョウより一回り大きく、黒っぽい翅に白い一文字模様が特徴のタテハチョウの仲間。

本州のみに生息する。林縁や明るい林で見られ、幼虫の食樹はスイカズラなど、同所によく似たイチモンジチョウも生息するので、細かい識別が必要である。北摂の山地では普通にみられるが、平野部には少ない。

【選定理由】

アサマイチモンジが生息するスイカズラが生えるような林縁環境が減少している。犬飼池周辺、千里第4緑地、万博記念公園で確認記録がある。

コムスジ(タテハチョウ科)



図 コミスジ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

アサマイチモンジより小さく前翅の長さは23~31mmである。前翅には白い帯が1本、後翅に2本ある。成虫は4月から11月まで見られ、年1~4回発生する。食草はクズ、ハギ類、ニセアカシアなどのマメ科の植物。

【選定理由】

吹田市内では万博記念公園と北千里公園でしか確認されておらず、万博記念公園、北千里公園、弘済院、佐竹台で確認されているが、かなり少ない。

ジャコウアゲハ(アゲハチョウ科)

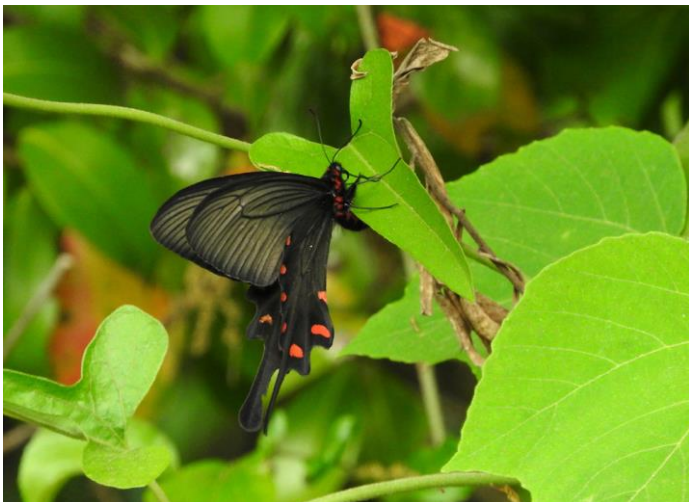


図 ジャコウアゲハ(雄)

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

やや薄い黒色のチョウで、前翅の長さは45~65mmである。後ろ翅は尾状になり、赤から黄色の斑紋がある。また、体の側面にも赤い斑紋がある。紋の色は変異が多く、雄の方が、色が濃い。本州以南に分布している。冬は蛹で越す。食草はウマノスズクサ類である。

【選定理由】

食草のウマノスズクサ類は、吹田市内では、糸田川下流と万博記念公園でしか確認されていない。したがって、繁殖地はかなり少ないとみられ、貴重である。

カラスアゲハ(アゲハチョウ科)

ランク 吹田市:A



図 カラスアゲハ (雄)

【種の特徴】

翅は黒色だが、緑色から青色の金属光沢のある鱗粉が表面に散在している。前翅の両側には薄黄色の帯がある。前翅の長さは45～60mmである。九州以北の日本全土に分布する。蛹で越冬する。食樹はカラスザンショウ、コクサギ、ハマセンダンなどミカン科の植物。

【選定理由】

万博記念公園で確認されているが、食樹とするカラスザンショウは、吹田市内では少ないと考えられ、貴重である。

ミヤマカラスアゲハ(アゲハチョウ科)

ランク 吹田市:A

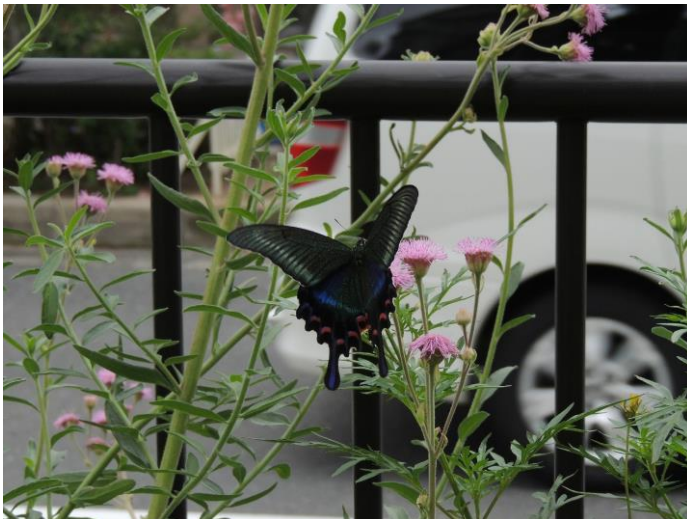


図 ミヤマカラスアゲハ (雄)

【種の特徴】

カラスアゲハによく似ているが、より鮮やかなメタリックな青緑色が美しく、後翅裏面に白い弓状のラインがあるのが特徴である。しかし、このラインが消失する個体もある。前翅の長さは、45～60mmで、幼虫の食樹はカラスザンショウ、ハマセンダン、キハダなどミカン科の植物であるが、栽培種を好まない。

【選定理由】

吹田市内ではカラスザンショウが生育する環境が減少しているため。吹田市内の記録が少なく、万博記念公園と紫金山公園でのみ記録がある。

スジグロシロチョウ(シロチョウ科)



図 スジグロシロチョウ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

モンシロチョウによく似ているが、少し大きく飛び方も緩やかである。

林縁や山あいに生息し、オスはレモンのような匂いがする。

幼虫の食草は、タネツケバナ、イヌガラシ、ダイコンなどのアブラナ科で、より山間部には、非常によく似たヤマトスジグロシロチョウが生息する。

【選定理由】

吹田市内では以前は普通に見られた種であると思われるが、市街地化が進みほとんど見られなくなった。最近の吹田市内の記録は、2003年に千里北公園で、2019年に万博記念公園で確認されている。

モンクロギンシャチホコ(シャチホゴガ科) ランク 吹田市:A 大阪府:NT

写真募集中

【種の特徴】

前羽の長さが約17mmで、灰白色の地に焦茶色の大きな斑紋がある。6月から8月に発生し、食樹はサクラなどである。

【選定理由】

2021年の自然環境調査で、北千里地域で発見された。大阪府レッドリストで準絶滅危惧種(NT)に指定されている。

図 モンクロギンシャチホコ

ウスアオリンガ(コブガ科)



図 ウスアオリンガ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

前羽の長さは約 13mm で、黄緑色である。6 月から 9 月に発生する。食樹はアキニレなどニレ科の植物。

【選定理由】

大阪府レッドリストでは準絶滅危惧種 (NT) に指定されている。吹田市内では万博記念公園、紫金山公園で確認されているのみである。

ウスイロシマゲンゴロウ(ゲンゴロウ科) ランク 吹田市:A 大阪府:NT



図 ウスイロシマゲンゴロウ

【種の特徴】

体長 10mm 程で、黄褐色した小型のゲンゴロウ。

平地から低山地の池、沼、水田に生息する。南西諸島では普通種だが、本州では局地的に分布する。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されており、分布が限られており、生息環境である田んぼやため池の改変で減少が著しい。吹田市内では、佐井寺地区の環境アセスメントで記録があるだけである。

ミイデラゴミムシ(ホソクビゴミムシ科)



図 ミイデラゴミムシ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

体長 11～18mm で、外敵に襲われたり、体に刺激を受けたりするとお尻から小さな爆発音と共に高温の臭いガスを出すため「へっぴりむし」と呼ばれるゴミムシ類の中のホソクビゴミムシの仲間。

成虫は夜行性で、平地の田んぼ、畑、河原などの湿った環境に生息し、小動物や、死肉をたべる。幼虫は土の中でケラの卵だけを食べる変わった生態を持つ。

【選定理由】

かつては田んぼや畑に普通に見られたが、農耕地の減少により、数を減らしている。ケラの卵だけを食べるという特殊な生態を持つ。「すいたの自然 2011」によると山田西で記録されており、2019 年に万博記念公園で確認されている。

スジヒラタガムシ(ガムシ科)



図 スジヒラタガムシ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT 国:NT

【種の特徴】

体長 3～4mm 位の小型のガムシ、丘陵地の抽水植物や浮遊植物の多いため池や湿地に生息する。産卵時期は 4～9 月、メスは孵化するまで腹部に卵嚢がくっついているのが特徴。護岸工事されていないような環境に多い。

【選定理由】

国および大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。かつて吹田市内にはスジヒラタガムシが生息するようなため池が沢山あったが、護岸されたり、宅地化されたりし、生息環境の減少が著しいため。最近では佐井寺地区の環境アセスメントで記録があるだけである。

ノコギリクワガタ(クワガタムシ科)



図 ノコギリクワガタ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

成虫のオスの体長 25～75mm と、変異が著しく、大型のオスは大顎が湾曲しその形状から「水牛」と呼ばれ親しまれる。クリ、コナラ、アベマキなどのある雑木林に生息し、樹液によく集まる。

【選定理由】

吹田市内では 20 年ほど前まで、関西大学の裏山付近に多産地があったが、開発され消滅した。千里丘、山田、春日の雑木林も減少し生息地の減少が著しい。

2001 年に片山公園で、最近では万博記念公園で記録がある。

アオカナブン(コガネムシ科)



図 アオカナブン

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

体長 25～29mm、主に全身光沢のある美しい緑色だが、色彩に変異がある。同じ仲間のカナブンも非常によく似た色の個体が見られ、体型はカナブンよりややスマートで、両後足の基節部が左右接していればアオカナブン、離れていればカナブンである。

平地から山地にかけての広葉樹林に生息し、コナラ・アベマキ、ヤナギなどの樹液によく集まる。

飛翔能力が高く、どちらかと言うと山地の方が多

【選定理由】

吹田市内ではそれほど多くない種だが、生息地の減少が著しい。「すいたの自然 2001」によると弘済院、で確認されている。

クロカナブン(コガネムシ科)



図 クロカナブン (左から2番目)

ドウガネブイブイ(コガネムシ科)



図 ドウガネブイブイ

ランク 吹田市:A 大阪府:VU

【種の特徴】

体長 22~28mm、体型は、アオカナブンよりやや太くカナブンに似ているが、全身が黒く光沢があり、アオカナブンと同様に両後足の基節部が左右接している。

主に山地より平地の雑木林に生息し、コナラ、アベマキ、ヤナギなどの樹液によく集まる。飛翔能力が高い。

【選定理由】

大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類(VU)に選定されている種である。吹田市内ではかなり少ない種で、生息地の減少が著しく、千里第4緑地で確認されているだけである。

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 18~24mm、体型は、カナブンより小さくずんぐりした体型で銅^{どうがねいろ}色のコガネムシの仲間。30年ほど前までは吹田市内で最も普通に見られるコガネムシであった。捕まえるとよく液状の糞をするので嫌われ、ブドウの害虫ともされている。ブイブイの語源は、カナブンの仲間をブイブイと呼ぶ地域から名付けられた。最近では、ドウガネブイブイに変わり南方種のアオドウガネが多い。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧(NT)に選定されている種である。以前はどこでも普通に生息していた種が30年で絶滅が危惧されるようになった。最近の吹田市内では、「すいたの自然2011」によると千里北公園、弘済院で確認されている。

ムネアカセンチコガネ(コガネムシ科) ランク 吹田市:A 大阪府:VU



図 ムネアカセンチコガネ

【種の特徴】

日本固有種で、大きさ9～14mmである。5月から10月にかけて出現する。

【選定理由】

大阪府レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。吹田市では北千里公園で確認されているのみで、かなり少ない。

ツシマヒメサビキコリ(コメツキムシ科) ランク 吹田市:A 大阪府:NT

写真募集中

【種の特徴】

体は、黒褐色で扁平。体長6.5～9.5mmである。後羽根が退化しているために、飛ぶことができない。

【選定理由】

2021年の自然環境調査で発見された。山田西地域と藤白台3丁目では確認されていない。

図 ツシマヒメサビキコリ

ヒメボタル(ホタル科)



図 ヒメボタル

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 6～9mm で、ヘイケホタルより一回り小さく、幼虫も成虫も発光する陸生のホタル。成虫は地域によって出現時期が違い、5～8月にフラッシュのような光り方をする。メスは後翅が退化し飛ぶことができない。幼虫は小型の陸生巻貝などを食べる。

平地から山地まで、草地、竹林、雑木林に生息する、分布は局地的である。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている種である。吹田市では、平成 23 年に「ヒメボタル生息地とそのヒメボタル」を天然記念物にしている。移動能力が弱く環境の改変に弱い種である。2000 年以前は、山手町、千里山や山田東でも確認されていたが、最近では千里第 4 緑地および千里山の記録だけにとどまっている。

ヘイケボタル(ホタル科)



図 ヘイケボタル

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 7～10mm で、ヒメボタルより少し大きい、幼虫も成虫も発光し、ヒメボタルとは違い幼虫が水中に生息する。平地から山地の周辺に草地、林のある田んぼ、湿地に生息し、幼虫はモノアラガイを食べる。成虫は、早いところでは 4 月頃から出現し 10 月頃まで見られ出現期は長い。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。開発により生息地である水田が減少したことや農薬散布のため激減している。吹田市内での記録は少なく、佐井寺地区のアセスの記録だけである。

ジュウクホシテントウ(テントウムシ科) ランク 吹田市:A 大阪府:NT

写真募集中

【種の特徴】

体の色は淡黄色で 19 個の黒点があり、やや細長のテントウムシ。ヨシにつくアブラムシを捕食し、4 月～8 月に出現する。

【選定理由】

2021 年の自然環境調査で発見された。大阪府レッドリストで準絶滅危惧種 (NT) に指定されている。吹田市内では安威川で確認されている。

図 ジュウクホシテントウ

ジュウサンホシテントウ(テントウムシ科) ランク 吹田市:A 大阪府:NT



図 ジュウサンホシテントウ

【種の特徴】

体長 5.5～6.5mm、テントウムシの仲間では体型が細長く扁平で、上翅に、オレンジの地色に 13 個の黒い紋がある。分布は局地的で、湖岸、池岸、河口、海岸などのヨシ原に生息し、モモコフキアブラムシなどを食べる。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧 (NT) に選定されている。生息環境であるヨシ原が減少している。吹田市内では、「すいたの自然 2001」によると、今はマンションが建設された釈迦が池の東にあった「メダカの田んぼ」で記録がある。

シロスジカミキリ(カミキリムシ科)



図 シロスジカミキリ

ランク 吹田市:A

【種の特徴】

成虫は、体長 5 cm 以上にもなり国内最大級のカミキリムシで、燈火にも飛来し、特徴的な産卵痕を残すため生息していれば見つけやすい種である。幼虫期は 3~4 年と長い。

主に里山の雑木林に生息し、幼虫は、クリ、コナラなどのブナ科や、ヤナギなどの生木にはいて食い荒らし、クリの害虫とされている。

【選定理由】

吹田市内では、千里第 4 緑地、紫金山公園近くのマンションでも確認記録があるが、めったに見られなくなっている。

ベニバハナカミキリ(カミキリムシ科)



図 ベニバハナカミキリ

ランク 吹田市:A 大阪府:VU

【種の特徴】

体長 8~14mm、成虫は、5~8 月に出現し、ケヤキ、ムクノキ、カエデなどの樹洞内の腐蝕部で発生する。社寺林や公園の大木でも生息地がある。

【選定理由】

大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類(VU)に選定されている。大木の樹洞があるような特殊な環境に生息する。吹田市内では、「すいたの自然 2011」によると、片山公園で確認記録があるだけである。

クロオビツツハムシ(ハムシ科)



図 クロオビツツハムシ

ランク 吹田市:A 大阪府:NT

【種の特徴】

体長 5mm で、5 月から 10 月にかけて出現する。イタドリ、ハギ類、ナツフジなどを食べる。

【選定理由】

大阪府レッドリスト準絶滅危惧種 (NT) に指定されている。吹田市内では万博記念公園、新芦屋上でのみ確認されており、かなり少ない。

ヤマトアシナガバチ(スズメバチ科)



図 ヤマトアシナガバチ

ランク 吹田市:A 国:DD

【種の特徴】

体長 15~22mm で、街中でよく見られるセグロアシナガバチや、野山のキアシナガバチによく似ているが、胸部背面後方の黄色い筋があり、足が黒い。

低山地に生息し、おとなしい性質で、ほとんど襲ってくることはない。

セグロアシナガバチやキアシナガバチの巣と違い繭の蓋の色は黄緑色である。

【選定理由】

国レッドリストでは情報不足 (DD) となっている。沖縄から本州にかけて広く分布するが、個体数は少なく関東地方では絶滅したところもあるようだが、北摂地域ではわりと見られる。吹田市内では千里北公園、紫金山公園、万博記念公園で記録がある。

モンスズメバチ(スズメバチ科)

ランク 吹田市:A 国:DD



図 モンスズメバチ

【種の特徴】

体長 25～35mm で、オオスズメバチ、キイロスズメバチと並び攻撃性の高いスズメバチの仲間。

腹部の黒い帯状の模様が波打つのが特徴、他のスズメバチ類と違い夜でも活動する。よく昆虫類を捕食し、特にハルゼミを好む。

【選定理由】

国レッドリストでは情報不足 (DD) となっている。ハルゼミの減少に伴い減っていると考えられる。吹田市内では、千里丘、万博記念公園、紫金山公園で確認記録がある。

キアシハナダカバチモドキ(アナバチ科) ランク 吹田市:A 国:VU

【種の特徴】

体長 20mm ぐらいで、艶のある黒色の体に黄色の斑紋とオレンジ色の脚を持つ美しいアナバチの仲間。

海岸や河川下流部の日当たりのよい固まった砂地のある環境に生息する。

砂地の地中に穴を掘り育房を作り、オンブバッタやイナゴなど、バッタ類、ササキリ類を狩って、卵を産み付け幼虫の餌にする。

【選定理由】

大阪府レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に選定されている。「すいたの自然 2011」によると紫金山公園で記録があるが、他に記録はない。かなり珍しい種である。



6 ブラックリスト

2005年に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」いわゆる「外来生物法」が制定された。この法律では在来の生態系を攪乱したり、人の生命・身体、農林水産業に被害を与えたり、またはその恐れのある生物を「特定外来生物」として指定し、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入、野外に放つことなどについて規制を行うとともに国や自治体が野外等の外来生物の駆除を行うことを定めている。これに違反した場合は、個人には3年以下の懲役や300万円以下の罰金、法人には1億円以下の罰金が科され、かなり重い罰則となっている。

この法律に基づいて特定外来生物が指定されているが、これも含めて生態系に被害を及ぼす恐れのある外来生物を「生態系被害防止外来種」に指定してリストを作成している。

これらを以下のカテゴリーに区分して指定している。

定着を予防する外来種（定着予防外来種）

- ① 侵入予防外来種
- ② その他定着を予防する外来種（定着予防外来種）

総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種）

- ③ 緊急対策外来種
- ④ 重点対策外来種
- ⑤ その他の総合対策外来種

適切な管理が必要な産業上重要な外来種

- ⑥ 適切な管理が必要な産業上重要な外来種

近隣地域の兵庫県や神戸市はブラックリスト、堺市ではアラートリストとして外来種を指定している。吹田における生態系被害防止リストに該当する植物種は「吹田の自然 2011」のリストに、その調査地以外の地域で見つかった外来種も加えて、国の生態系被害防止外来種に該当する種は、国のカテゴリーに当てはめると③3種、④18種、⑤29種、⑥13種となる。しかし、これらを全て吹田のブラック種としたわけではなく、特定外来種に指定されている種および最も影響があると考えられる種とまだ吹田には侵入していないが近い将来侵入する恐れのある種を選定した。また、国の生態系被害防止外来種リストに記載されていない種でも吹田では影響がありそうな種も選定した。

吹田にはまだ侵入していないが、恐れある種としては植物ではナガエツルノゲイトウ、昆虫ではアルゼンチンアリ、クビアカツヤカミキリが挙げられる。ナガエツルノゲイトウは淀川、尼崎市、伊丹市、高槻市などの近隣地域に既に侵入しており、吹田にも入る可能性がある。アルゼンチンアリは伊丹空港や大阪空港で繁殖が確認されており、吹田でも警戒を要する。クビアカツヤカミキリは大阪市、堺市、高槻市などで確認されており、侵入すればサクラ、ウメなどバラ科の樹木に大きな被害が及ぶことが予想される。これらは早期発見、駆除が有効で常に気をつけていなければならない種である。

科名	種名	特定外来生物	生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種 範疇	備考
ヒユ科	ナガエツルノゲイトウ	○	②	まだ侵入していないが可能性のある種
キク科	オオキンケイギク	○	③	
キク科	ナルトサワギク	○	③	
オオバコ科	オオカワヂシャ	○	③	
モクセイ科	トウネズミモチ		③	
トウダイグサ科	ナンキンハゼ		⑤	
マメ科	アレチヌスビトハギ		③	
ニガキ科	ニワウルシ		④	
キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ		④	
ヒルガオ科	ノアサガオ		④	
トケイソウ科	トケイソウ		⑤	
キツネノマゴ科	ヤナギバルイラソウ		⑤	
マメ科	ナヨクサフジ			
イネ科	ファウンテングラス			

哺乳類

科名	種名	特定外来生物	生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種 範疇	備考
アライグマ科	アライグマ	○	③	
ヌートリア科	ヌートリア	○	③	
ジャコウネコ科	ハクビシン		④	
イタチ科	チョウセンイタチ		④	

鳥

科名	種名	特定外来生物	生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種 範疇	備考
ソウシチョウ科	ソウシチョウ	○	④	

は虫類

科名	種名	特定外来生物	生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種 範疇	備考
ヌマガメ科	ミシシッピアカミミガメ	○	③	

両生類

科名	種名	特定外来生物	生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種 範疇	備考
アカガエル科	ウシガエル	○	③	

魚類

科名	種名	特定外来生物	生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種 範疇	備考
サンフィッシュ科	オオクチバス	○	③	
サンフィッシュ科	ブルーギル	○	③	
カダヤシ科	カダヤシ	○	④	
コイ科	ソウギョ		⑤	

昆虫

科名	種名	特定外来生物	生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種 範疇	備考
アリ科	アルゼンチンアリ	○	②	まだ侵入していないが可能性のある種
カミキリムシ科	クビアカツヤカミキリ	○	⑤	まだ侵入していないが可能性のある種
カスミカメムシ科	クスベニヒラタカスミカメ			
ビワハゴロモ科	シタベニハゴロモ			
オンブバッタ科	アカハネオンブバッタ			
カマキリ科	ムネアカハラビロカマキリ			

クモ類

科名	種名	特定外来生物	生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種 範疇	備考
ヒメグモ科	セアカゴケグモ	○	③	

甲殻類

科名	種名	特定外来生物	生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種 範疇	備考
アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	○	③	

貝類

科名	種名	特定外来生物	生態系に被害を及ぼす恐れのある外来種 範疇	備考
リンゴガイ科	スクミリンゴガイ		④	

《編集後記》

人類の進歩と調和を謳った万国博覧会が 1970 年に大阪で開かれて半世紀が過ぎた。この半世紀で万博当時は夢だった無線電話や持ち運びができるコンピューター、さらにバイオ技術など科学の進歩にはめざましいものがある。

一方、私たちの身近な自然はどうであろう。国の政策による開発で田畑はどんどん消えていった。それにともない多くの動植物が消えた。とても進歩に調和している姿だとは言えないだろう。

この現状に対して生物多様性国家戦略に基づく吹田市の地域戦略の必要性を考えたとき、どんな生き物の存続が危ぶまれているのか、あるいは消えてしまったのかをレッドリストにしようと思ったのは数年前だった。

幸運なことに吹田には動植物各部門に知識と経験が豊富なナチュラリストが多数いる。彼ら彼女らの知恵と体験を今回のリストづくりに提供していただいた。

昨年からの新型コロナウイルス感染症のため、会議するための会場が使えなかったり、会場が使えても大勢で集まることができなかつたりすることもあった。重要な会議はリモートでおこなったり、数人が集まりそこにリモートで大勢が参加するハイブリッド会議を開くなど 10 回を超える会議をし、文章の校正はウェブで行うなどしてこのレッドリストが完成した。

以前なら昆虫や草花、カエルや小川の魚たちは吹田市内の至るところで見られた。しかし現在、吹田市の子どもたちはこれらの動植物と接触することなく成長している。子どもたちの心の発達、精神形成の上で決していいことだとは言えないだろう。昭和 21 年、34 年に決定され、そのまま凍結されていると思っていた都市計画道路が令和の時代に解凍され、レッドリストにある複数の水田という生態系が消えてしまう。千里丘地区では毎日放送跡地周辺の樹林がことごとく消えてしまった。まさに吹田市は全域が市街化区域だということが実践されつつある。

多様な動植物が共存する自然環境は私たちの生存に不可欠であるばかりか人格形成の面でも、文化芸術など多くの面でも重要な働きをしている。吹田市内の身近な自然が消えようとしている今こそ、何らかの戦略を立てる必要が迫っている。その前提としてこのレッドリストが役に立つことを信じて発行する次第である。(小田忠文)

選定委員

有川佳代子、有賀憲介、尾方義雄、小田信子、小田忠文、金谷 薫、川畑清美、
喜田久美子、栗谷 至、小室 巧、武田義明、土生陽子、平 軍二、塩田敏治

写真提供者

有川佳代子、有賀憲介、稲波 誠、尾方 義雄、小田忠文、廣瀬達也、武田義明、小室 巧、
土生陽子、平 軍二

レッドリストすいた 2024 2024年3月31日発行

編集・発行：特定非営利活動法人 すいた市民環境会議

〒564-0032

吹田市内本町 2-18-8

TEL・FAX 06-6319-0630

Email: k-kaigi@hotmail.co.jp

HP: <https://www3.big.or.jp/~sskk/sskk.htm>



～豊かないきものたちと

共に暮らす未来のために～